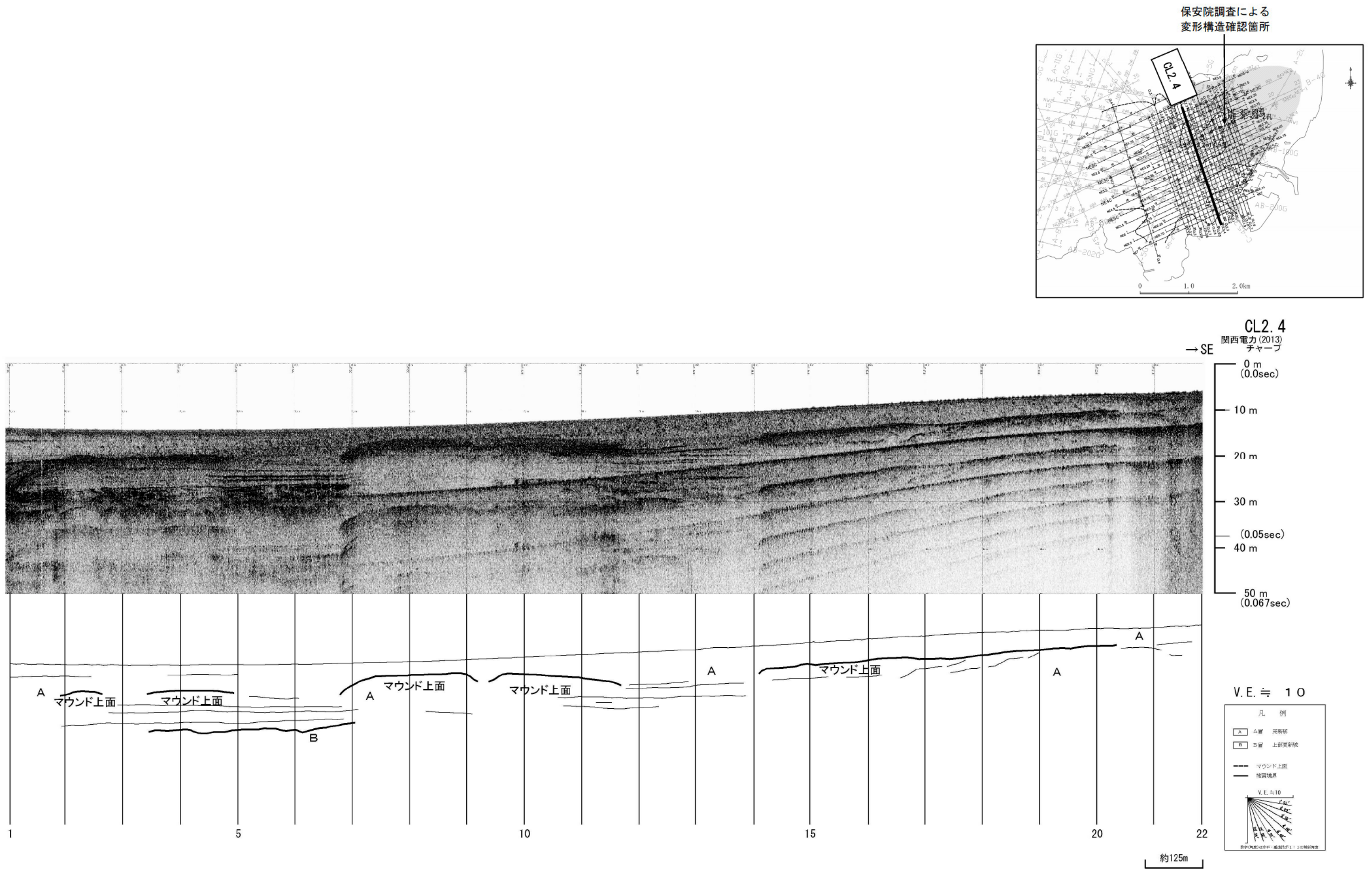
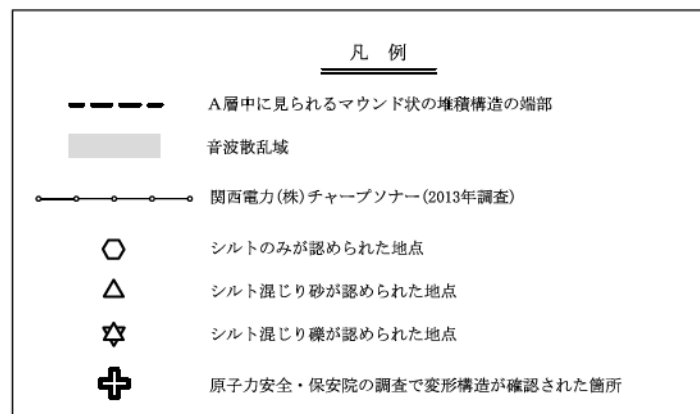
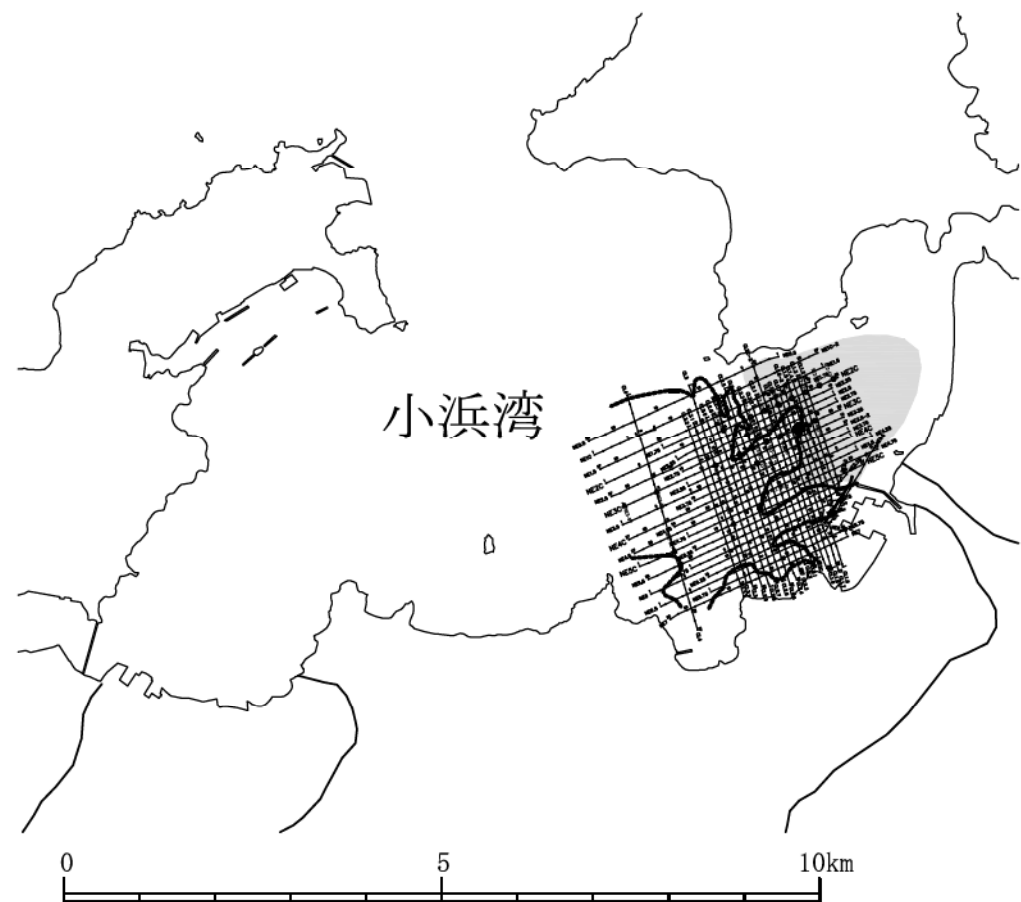
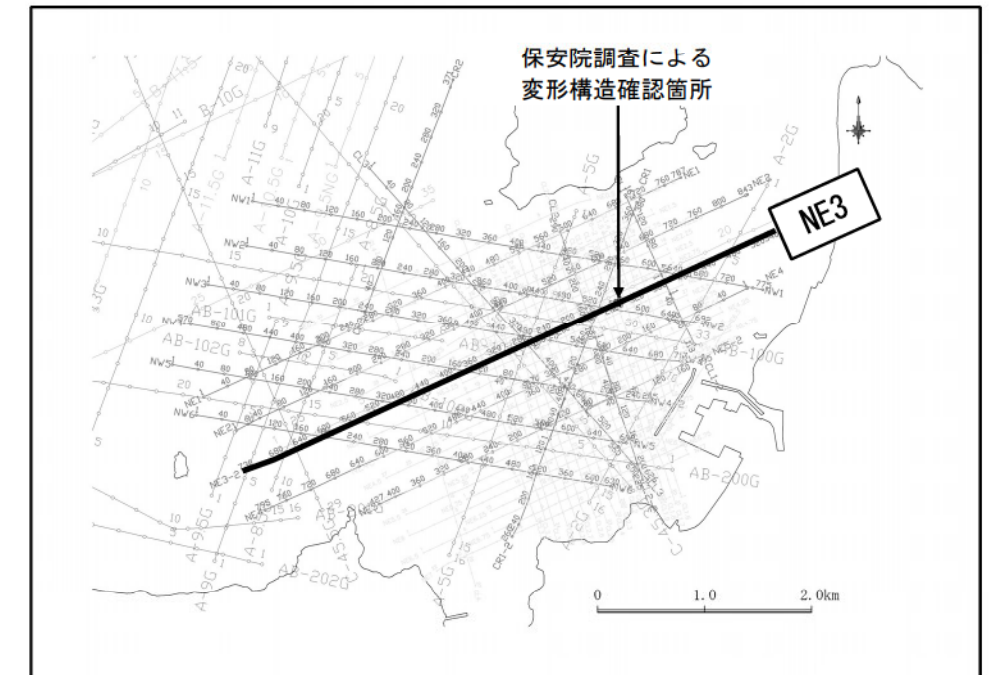
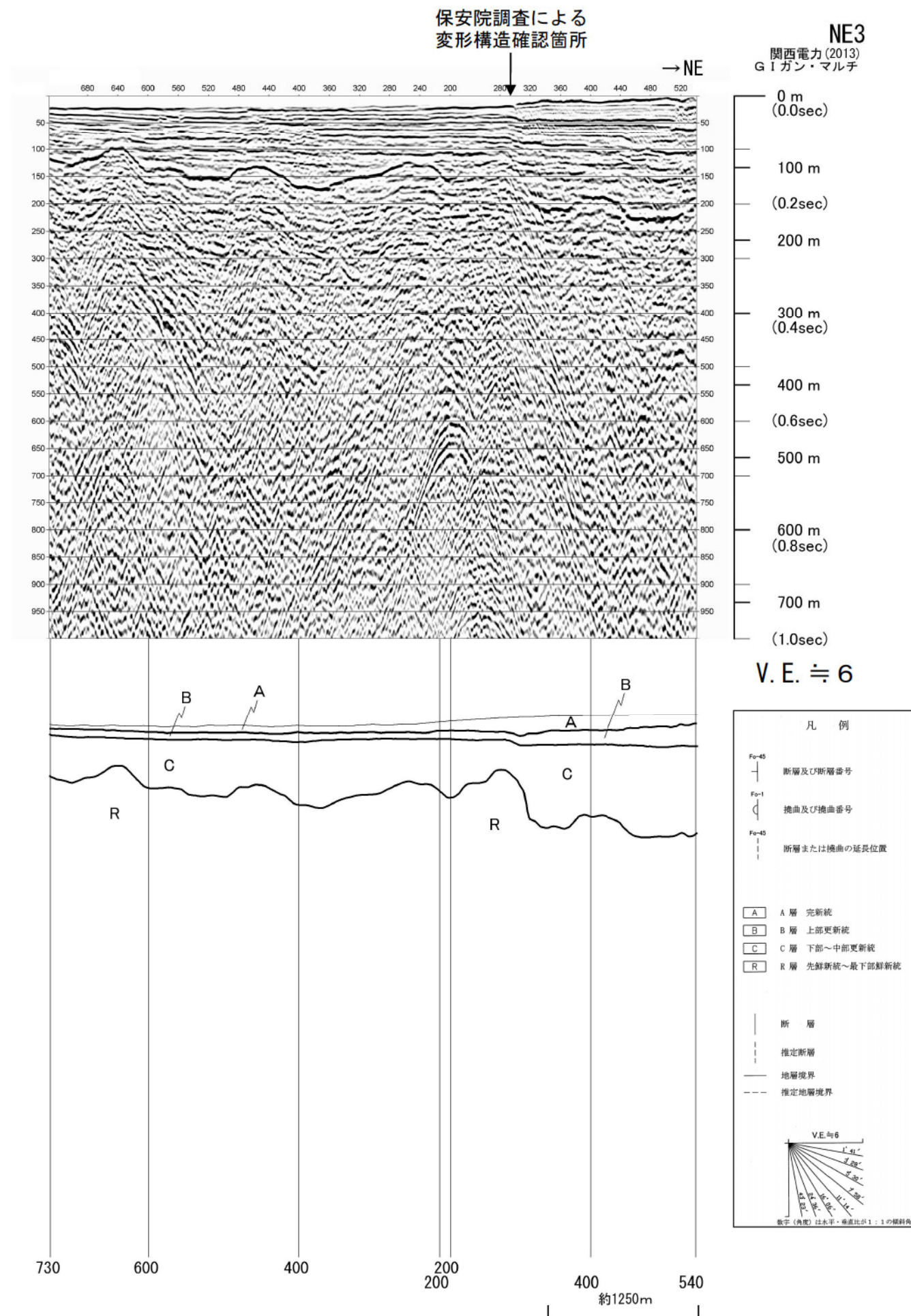




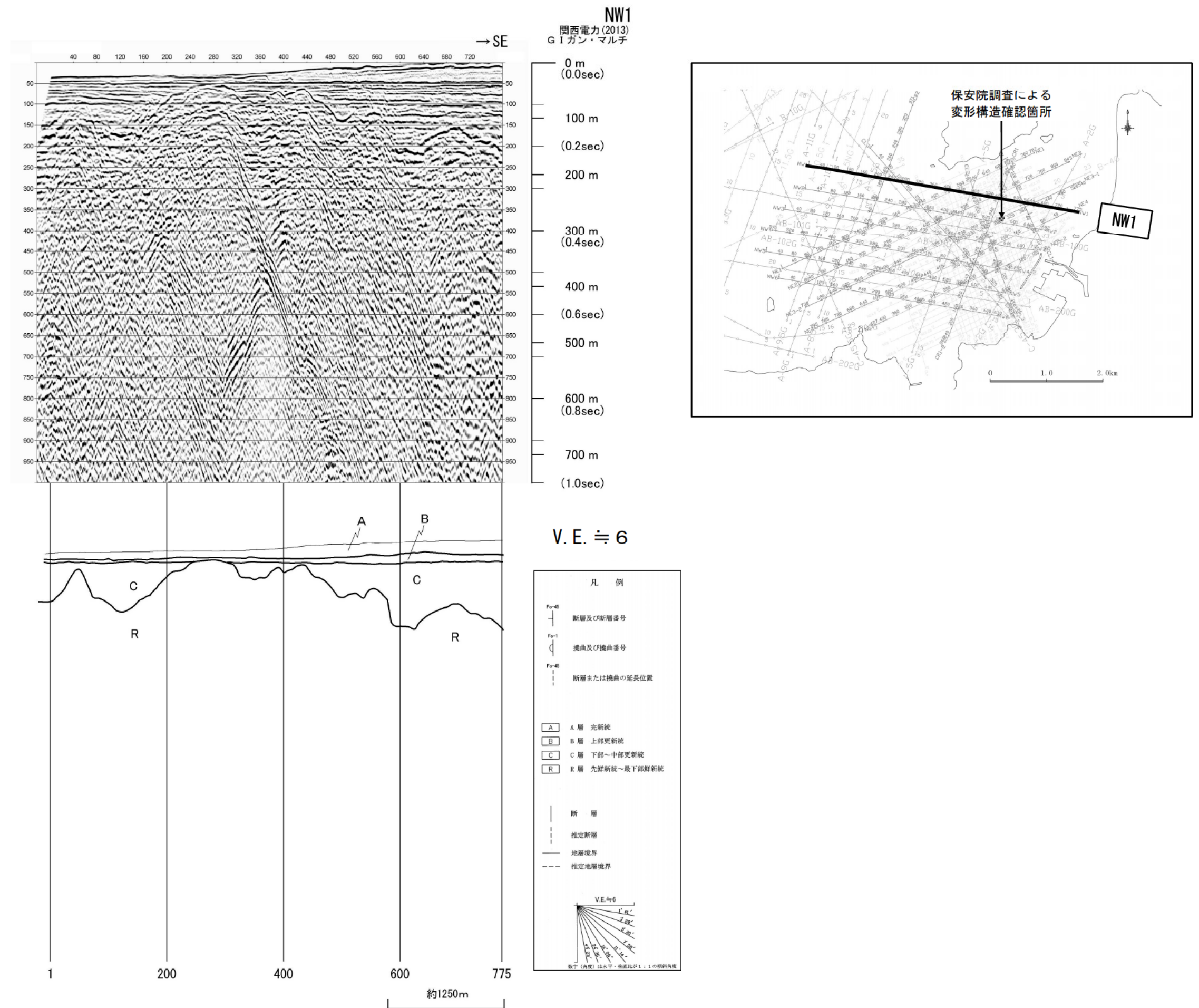
第 1.3.149 図(5) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 CL2.4)



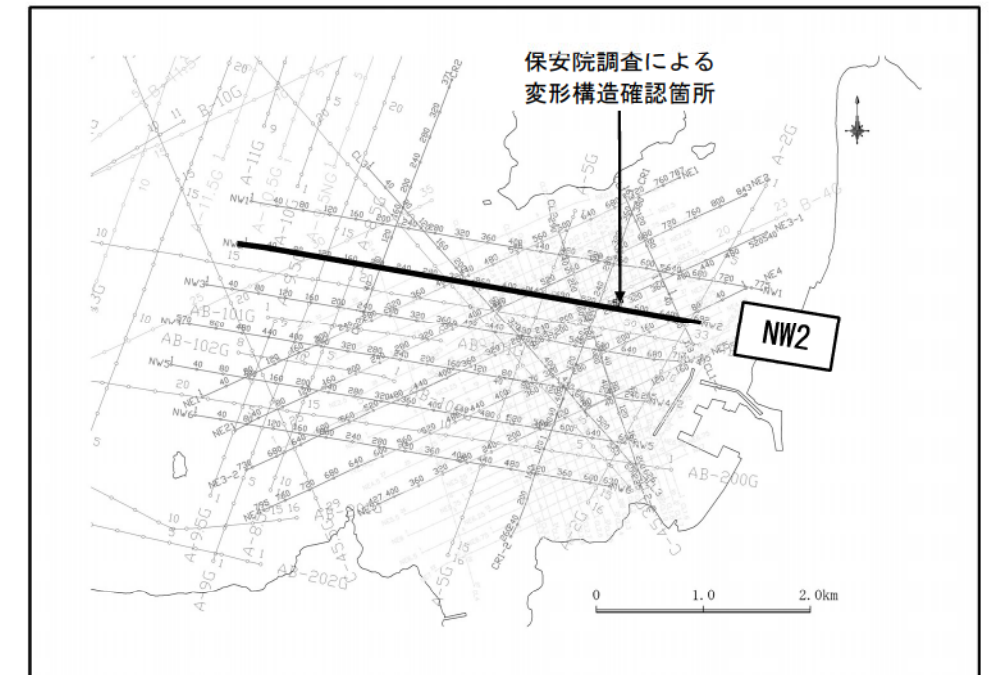
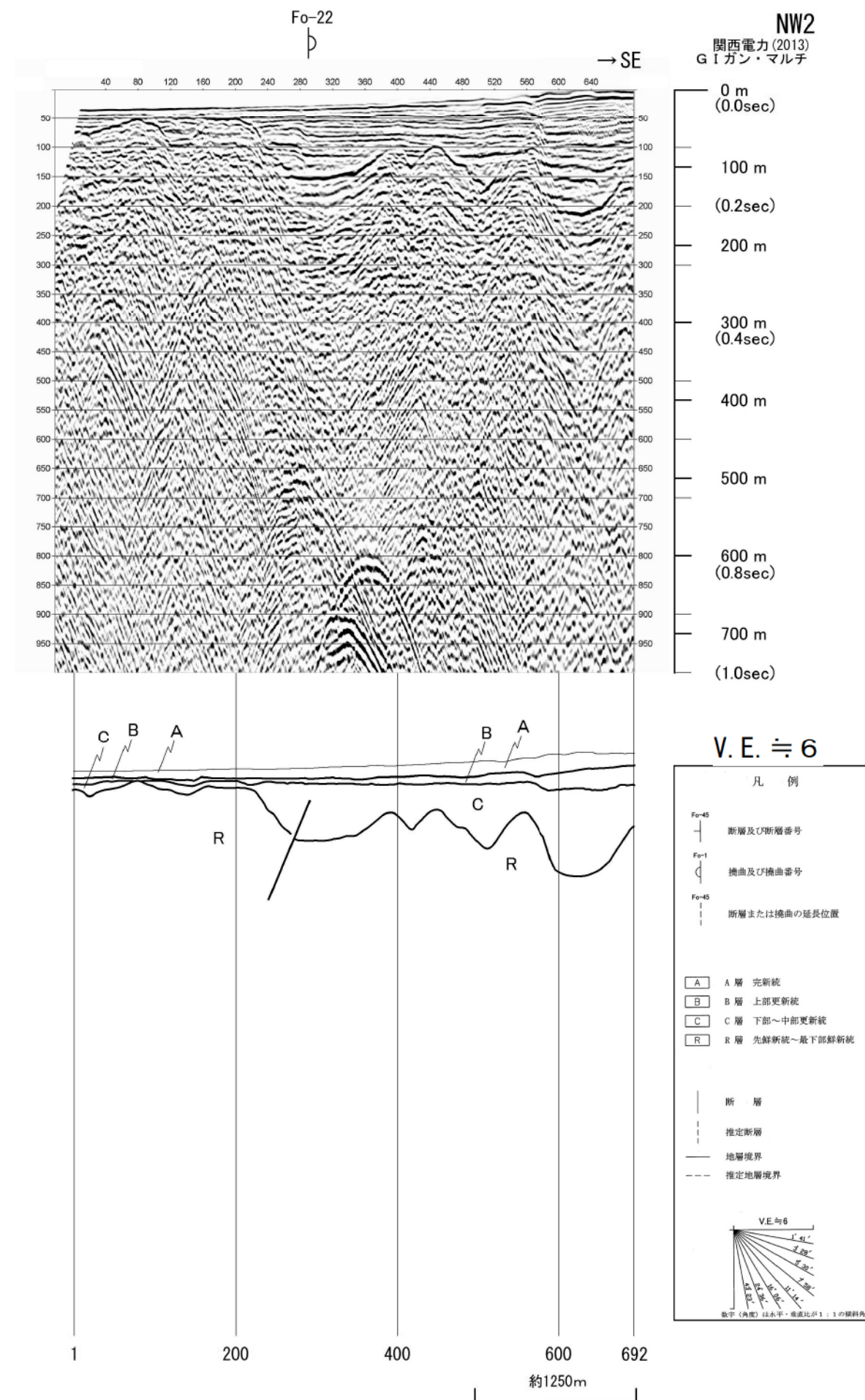
第1.3.150図 保安院調査による変形構造確認箇所付近における柱状採泥結果



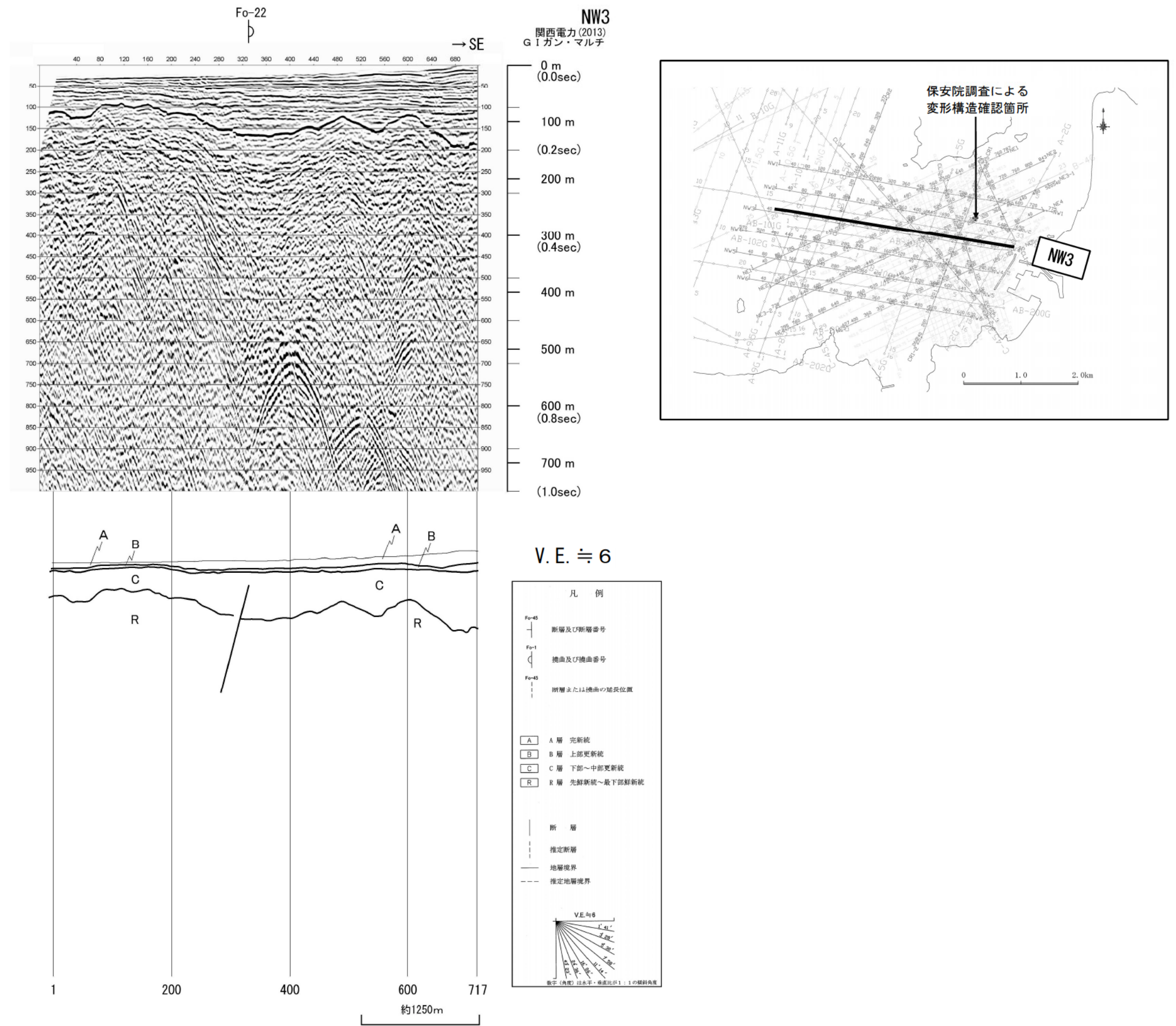
第 3.2.151 図(2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NE3)



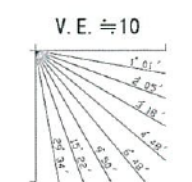
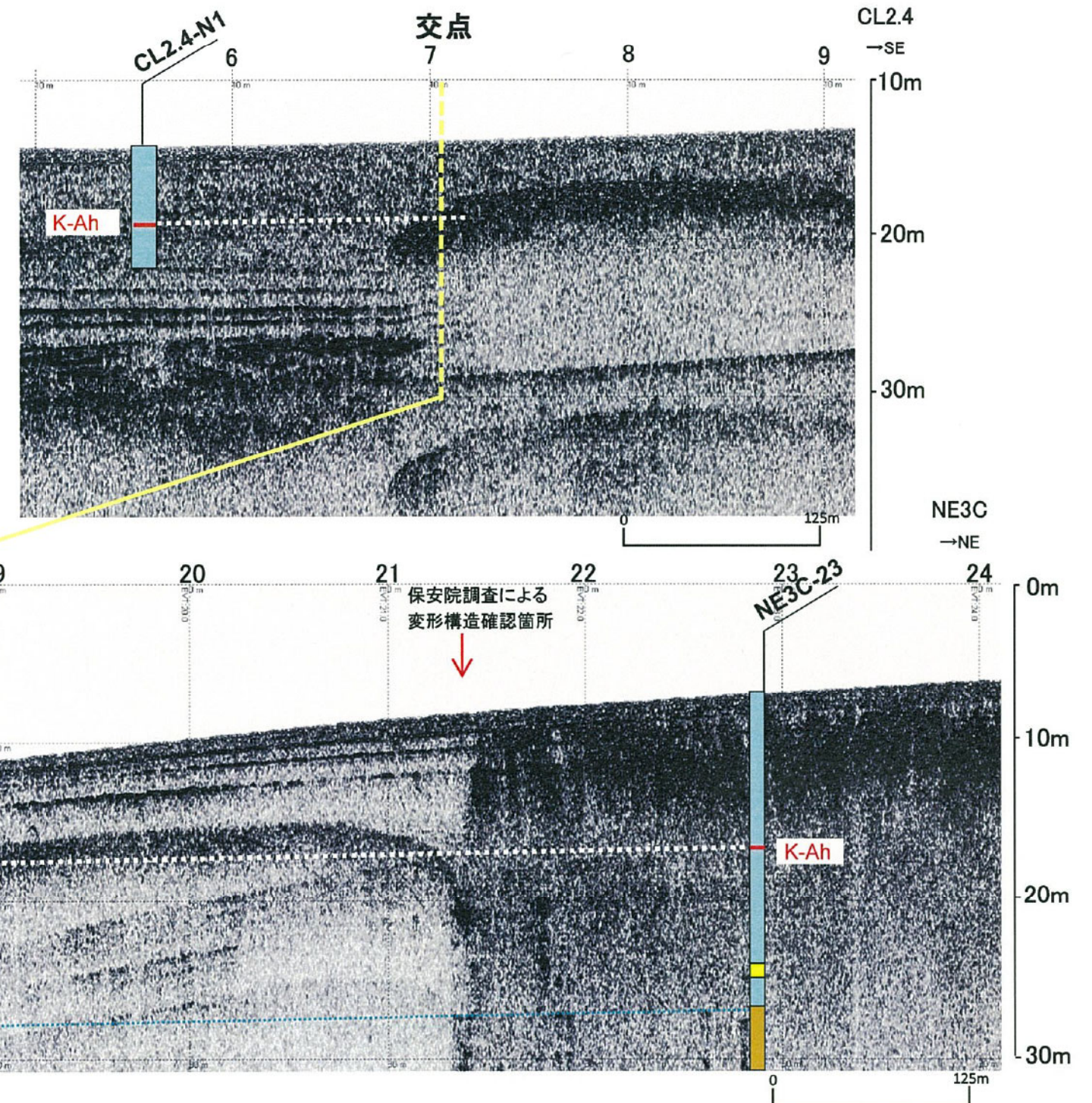
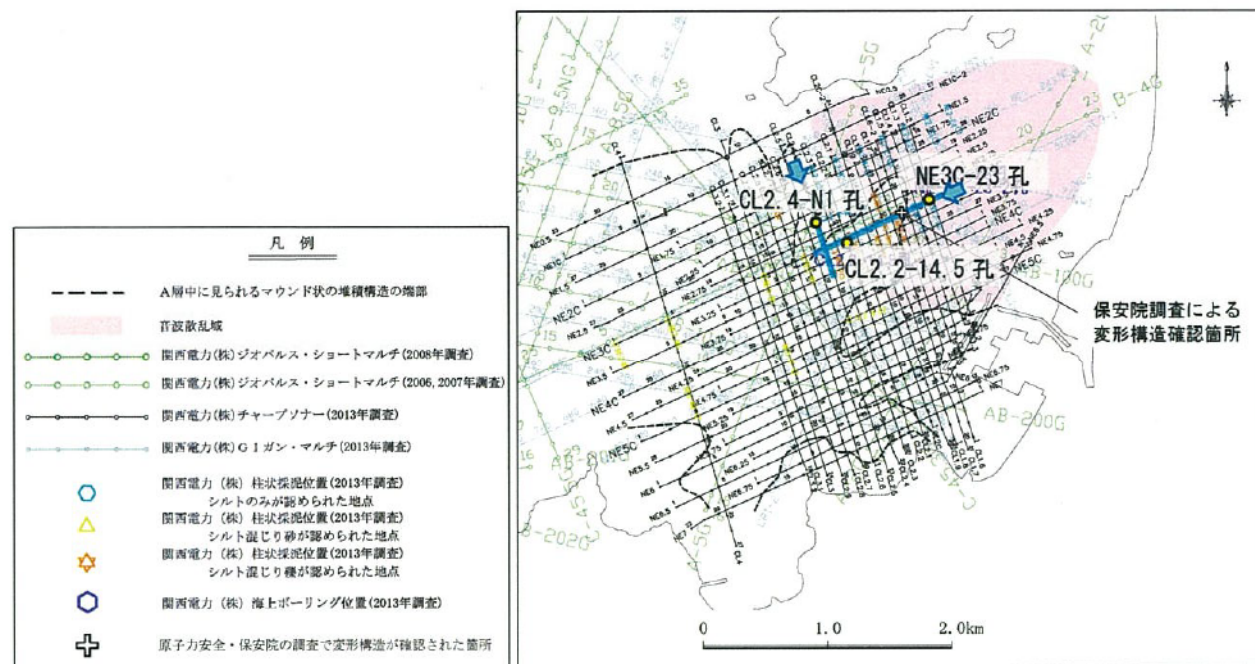
第 1. 3. 151 図(4) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NW1)



第 1. 3. 151 図(5) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NW2)



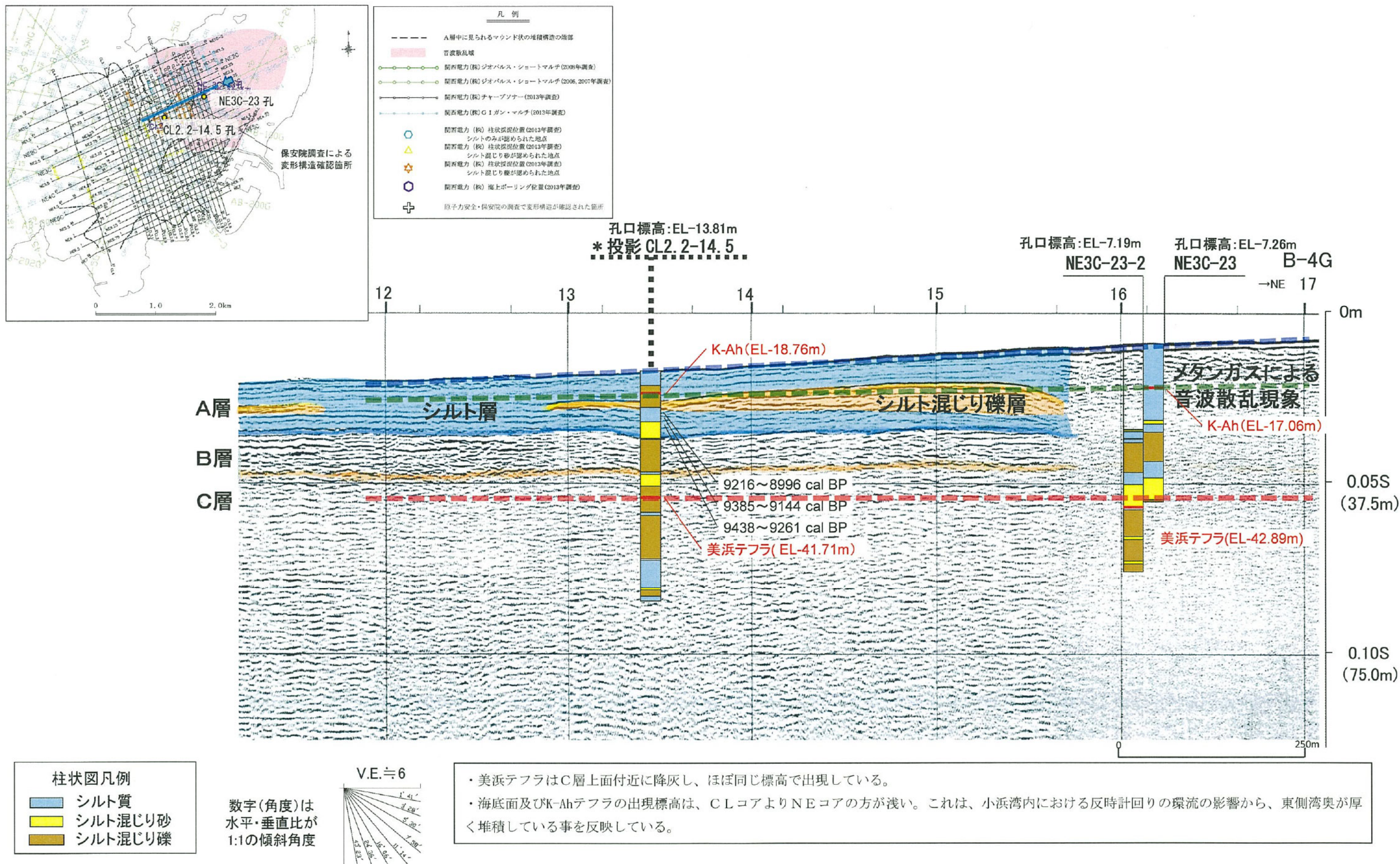
第 1.3.151 図(6) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び地質断面図(測線 NW3)



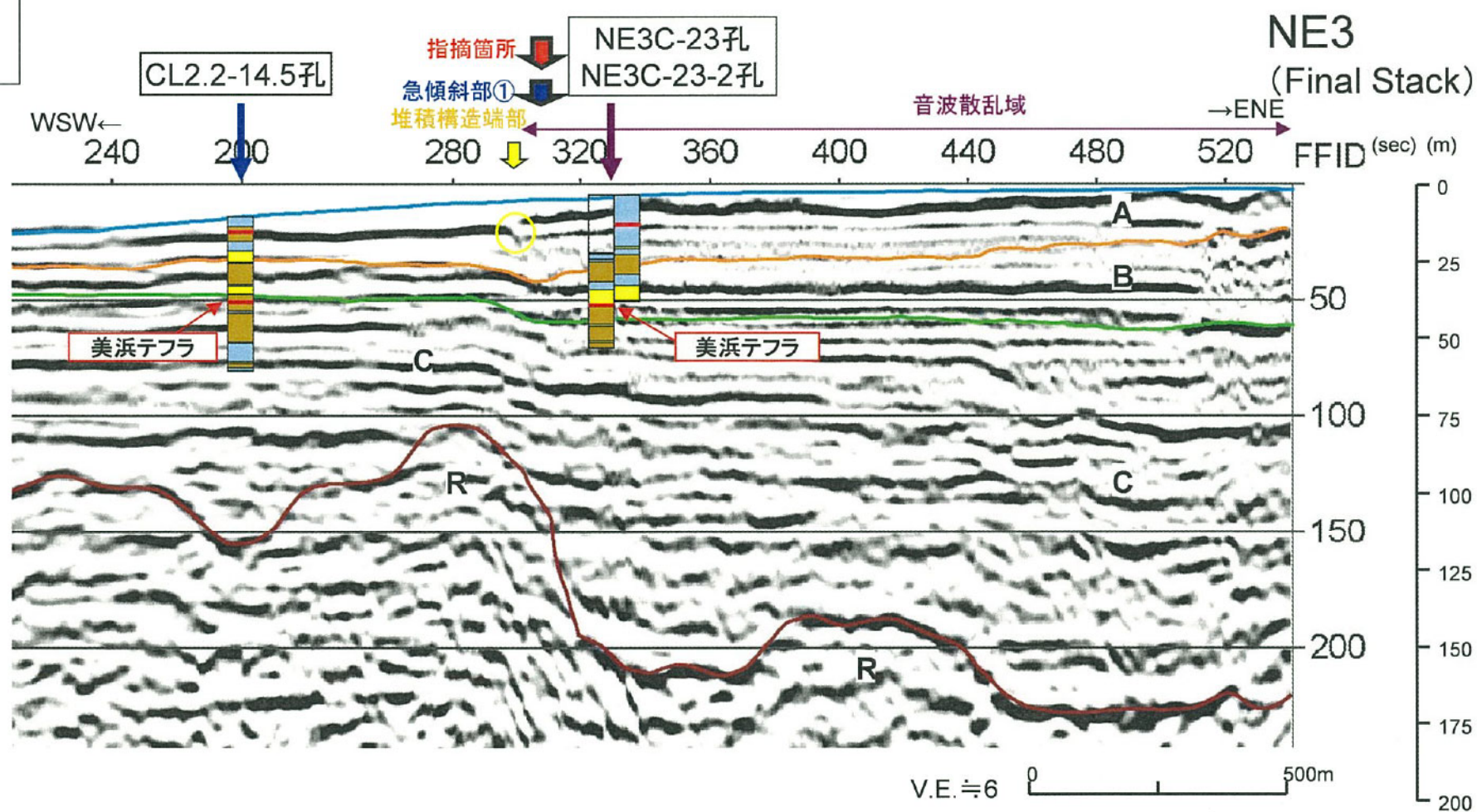
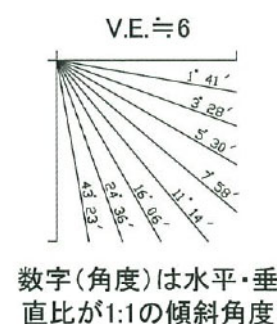
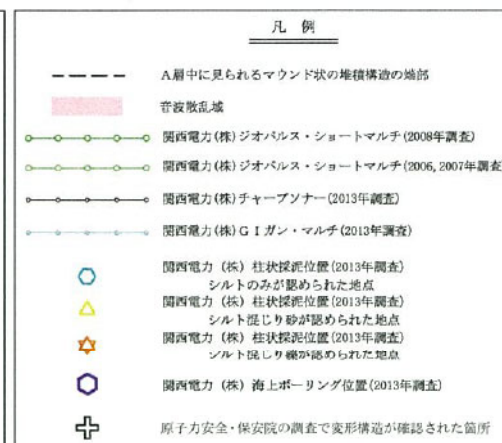
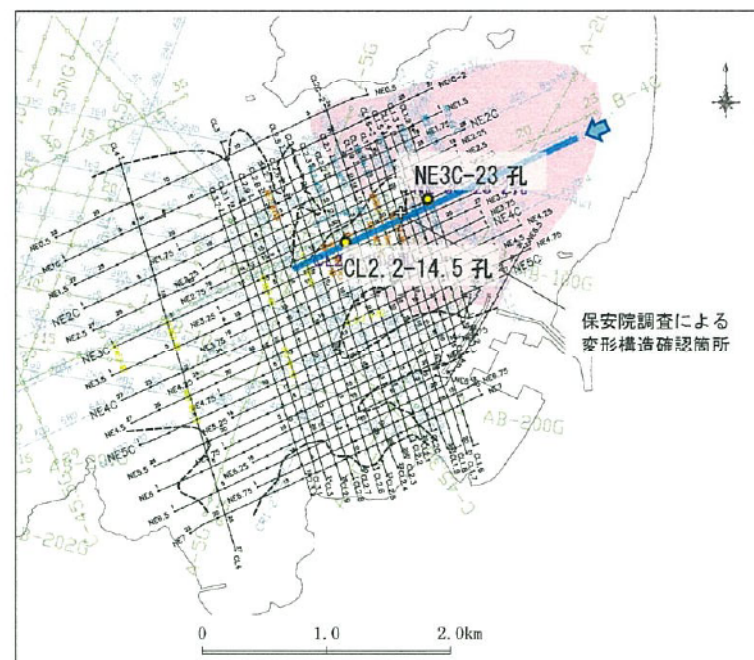
数字(角度)は水平・垂直比が1:1の傾斜角度

- CL2.4-N1孔のK-Ah降灰イベント層準は深度5.3m、CL2.2-14.5孔のK-Ah層準は深度4.95mであった。
- 音波散乱現象により海底下の情報がほとんど判読できなかった範囲内で掘削されたNE3C-23孔では深度9.8mにK-Ah層準が確認された。
- これらの出現標高はマウンド状構造を超えてほぼ一致し、少なくとも上図の範囲では変位変形は認められない。

第1.3.153図(1) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び海上ボーリング調査結果(測線 CL2.4~NE3C)

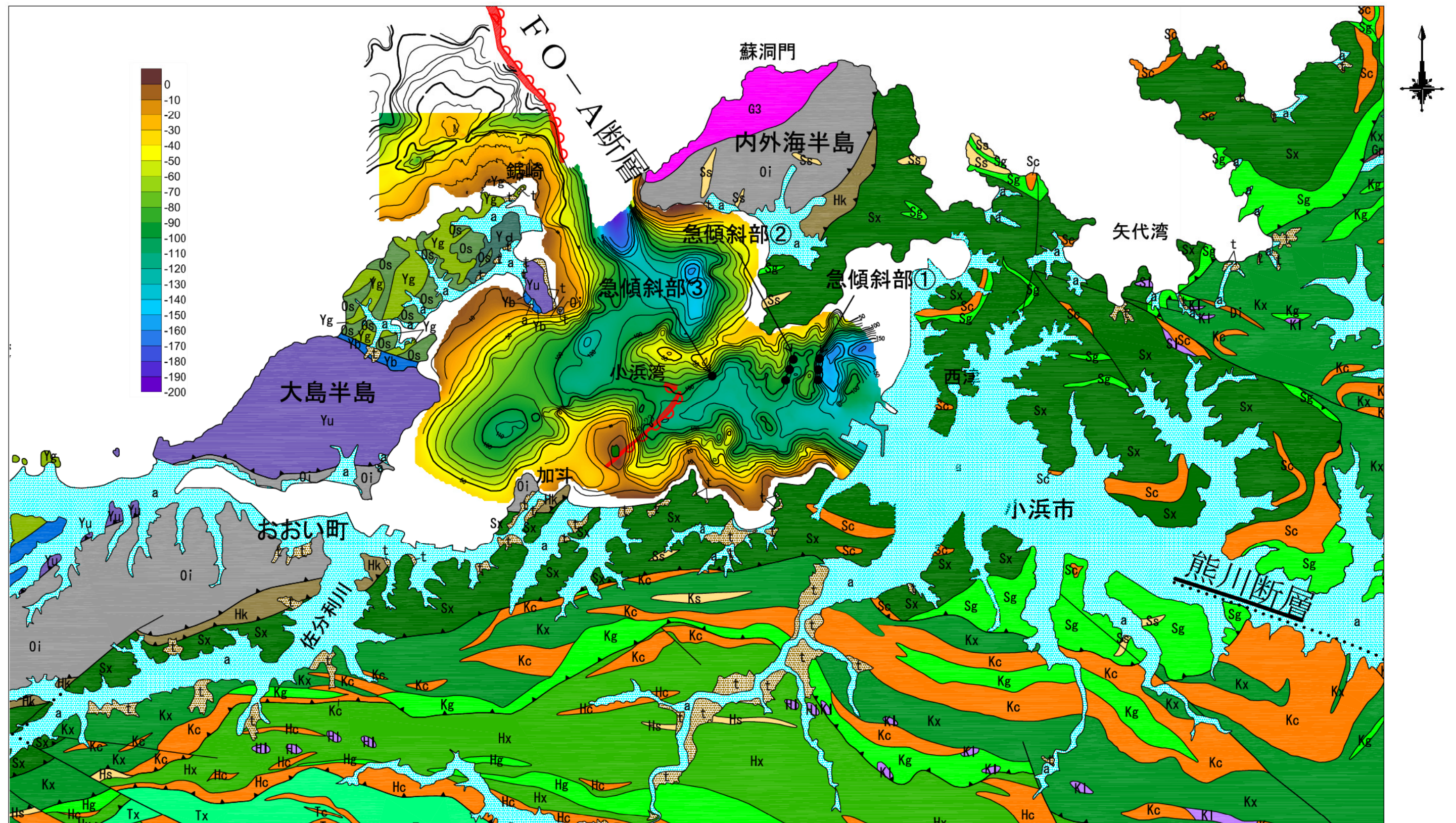


第1.3.153図 (2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び海上ボーリング調査結果(測線 B-4G)



・記録断面で見られるB/C境界面の落差は0.011秒であり、伝播速度を1,500m/sと仮定した場合には8.25mとなるが、海上ボーリングの結果、そのような落差は見られなかった。

第1.3.153図 (3) 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査記録及び海上ボーリング調査結果(測線 NE3)



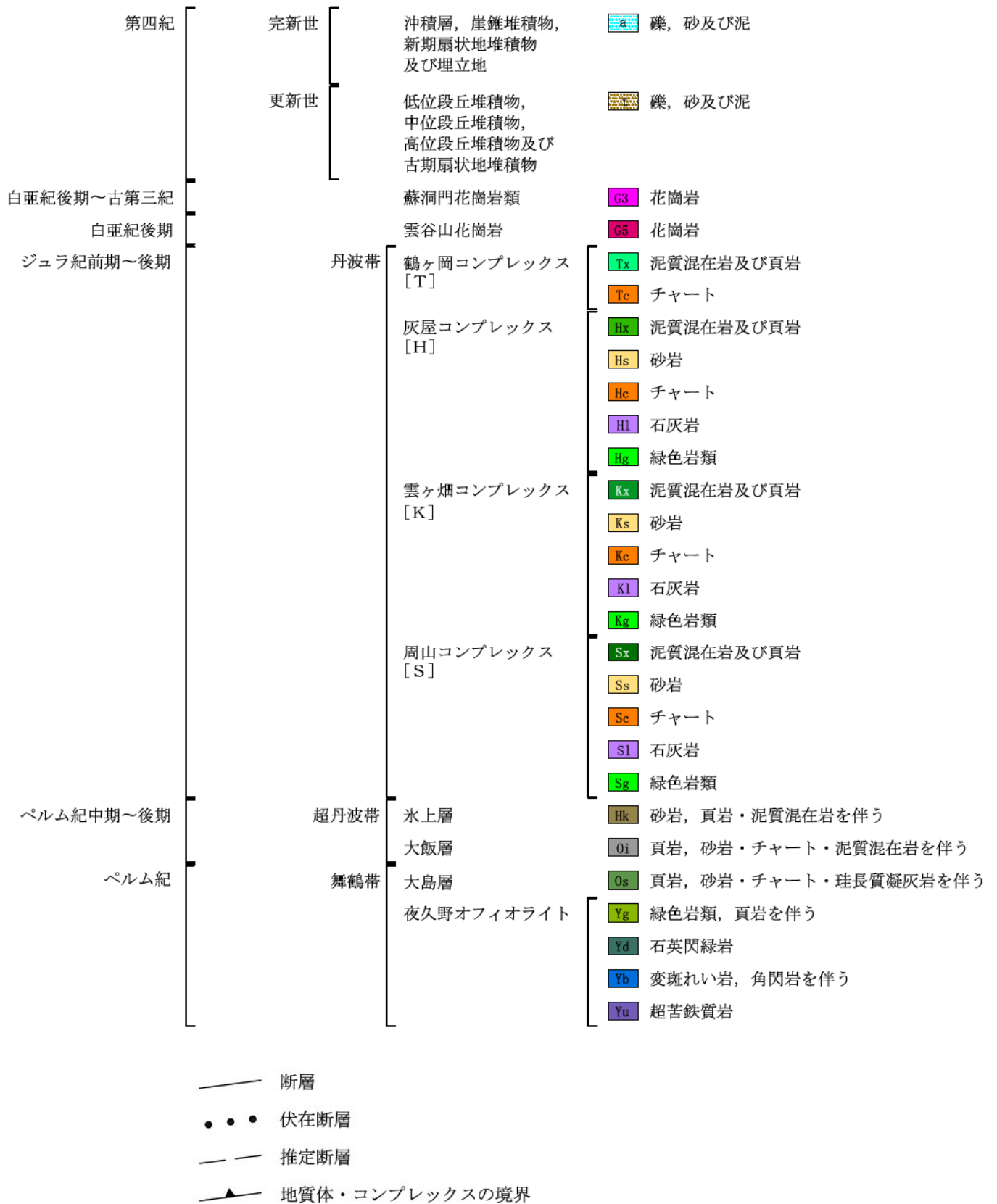
※地質図の凡例は次ページ

S=1:8,000

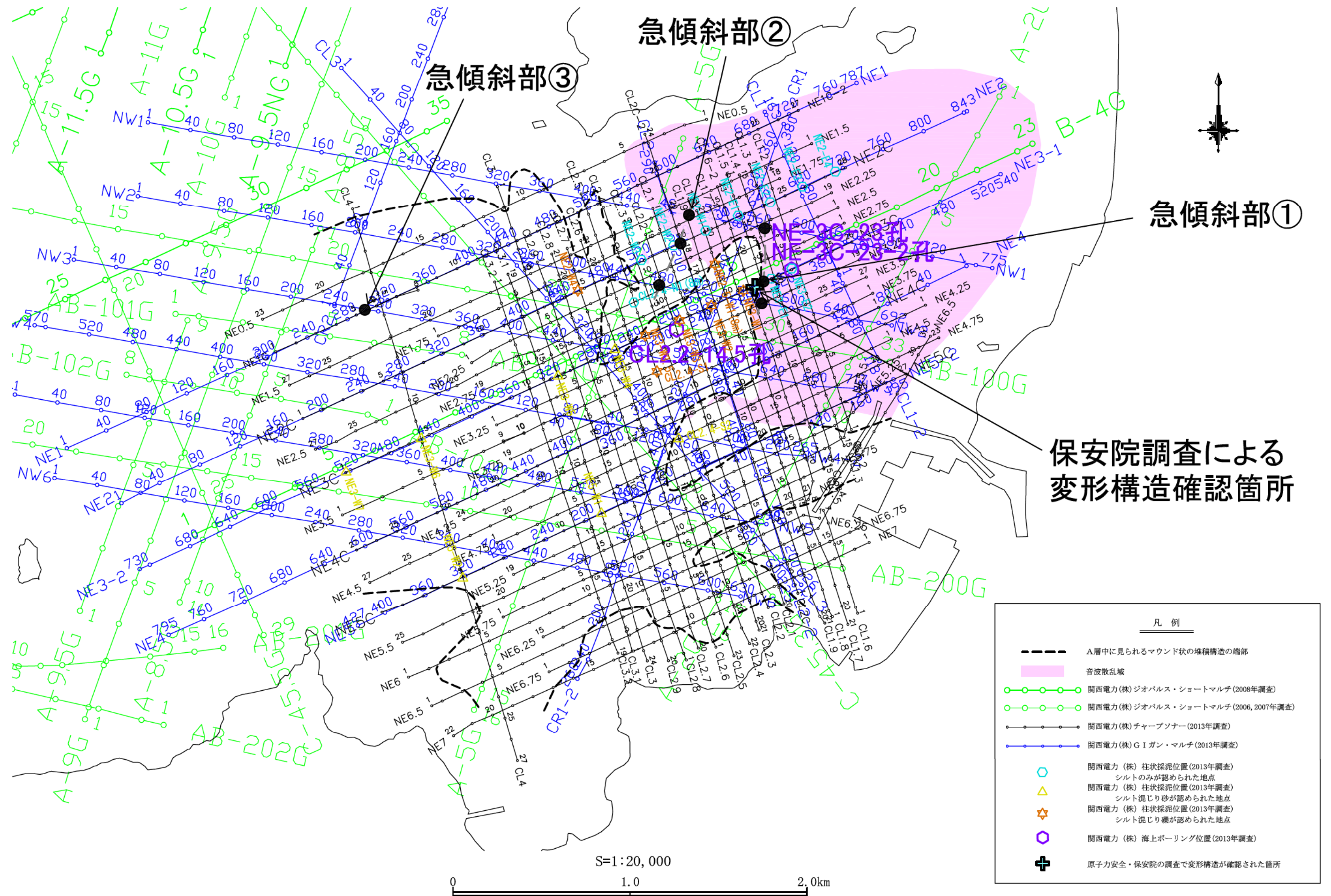
0 5km

第1.3.154図 (1) 小浜湾内の音響基盤上面等深線図

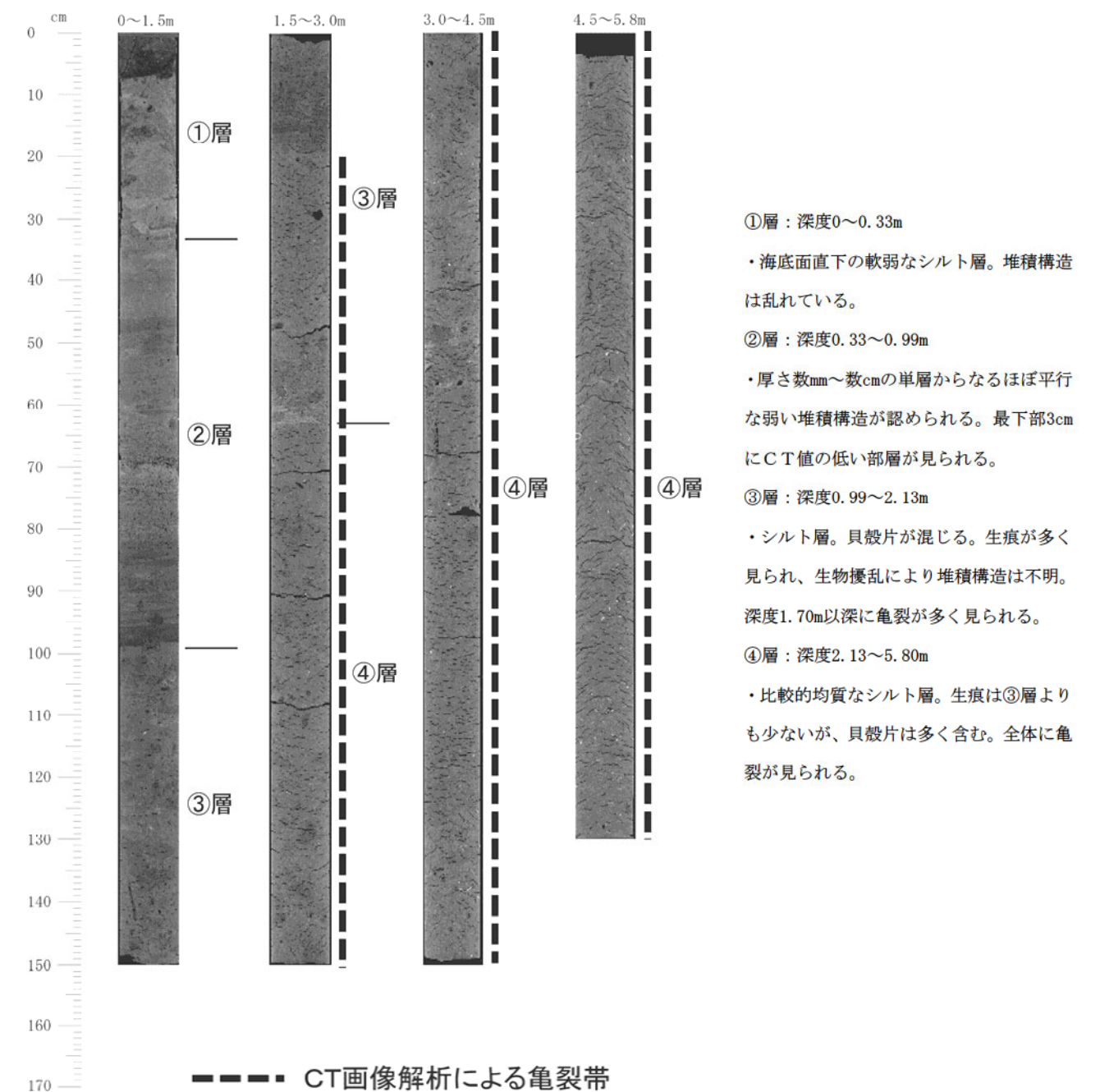
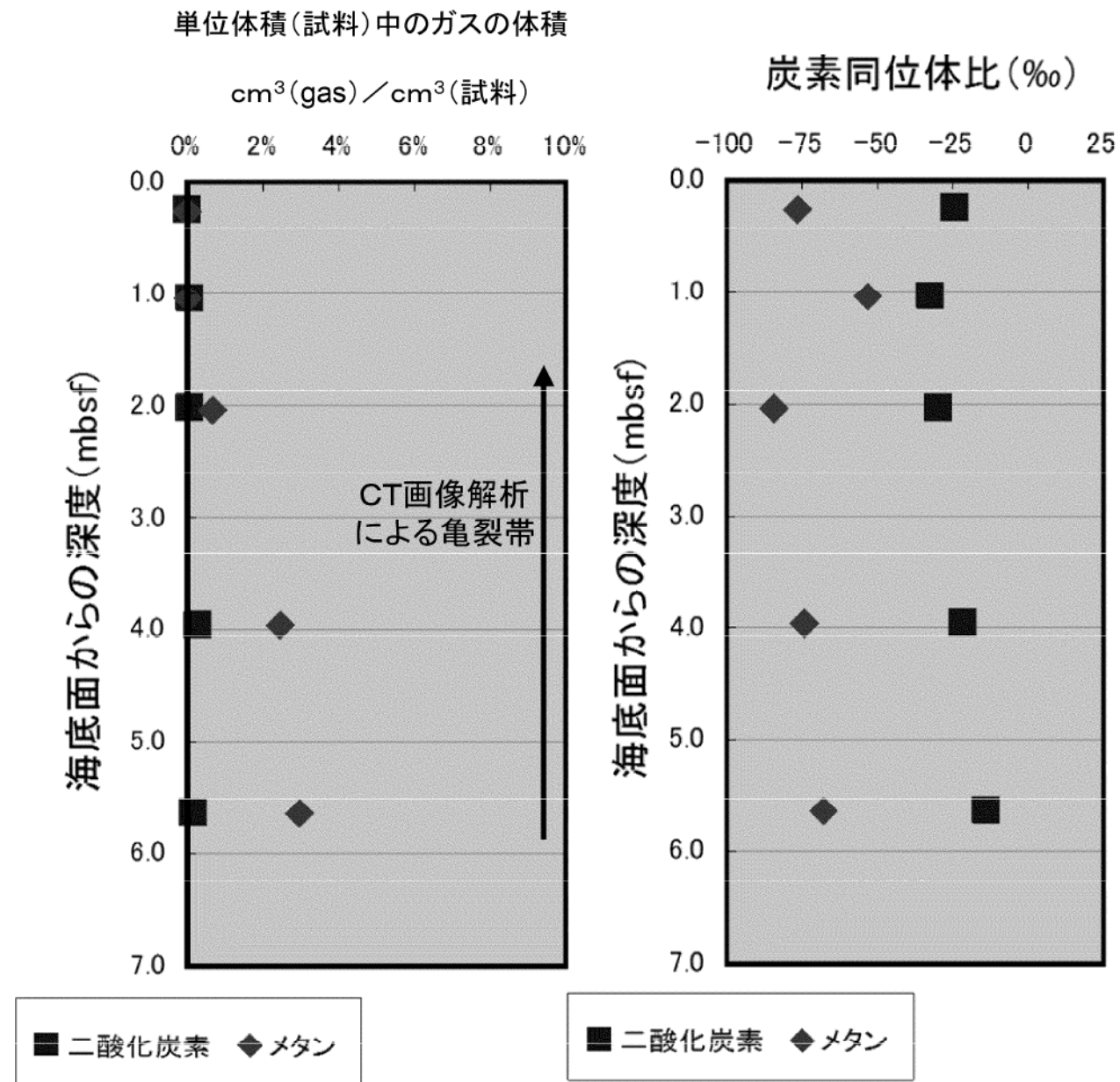
凡 例



第1. 3. 154図(2) 小浜湾内の音響基盤上面等深線図 地質凡例

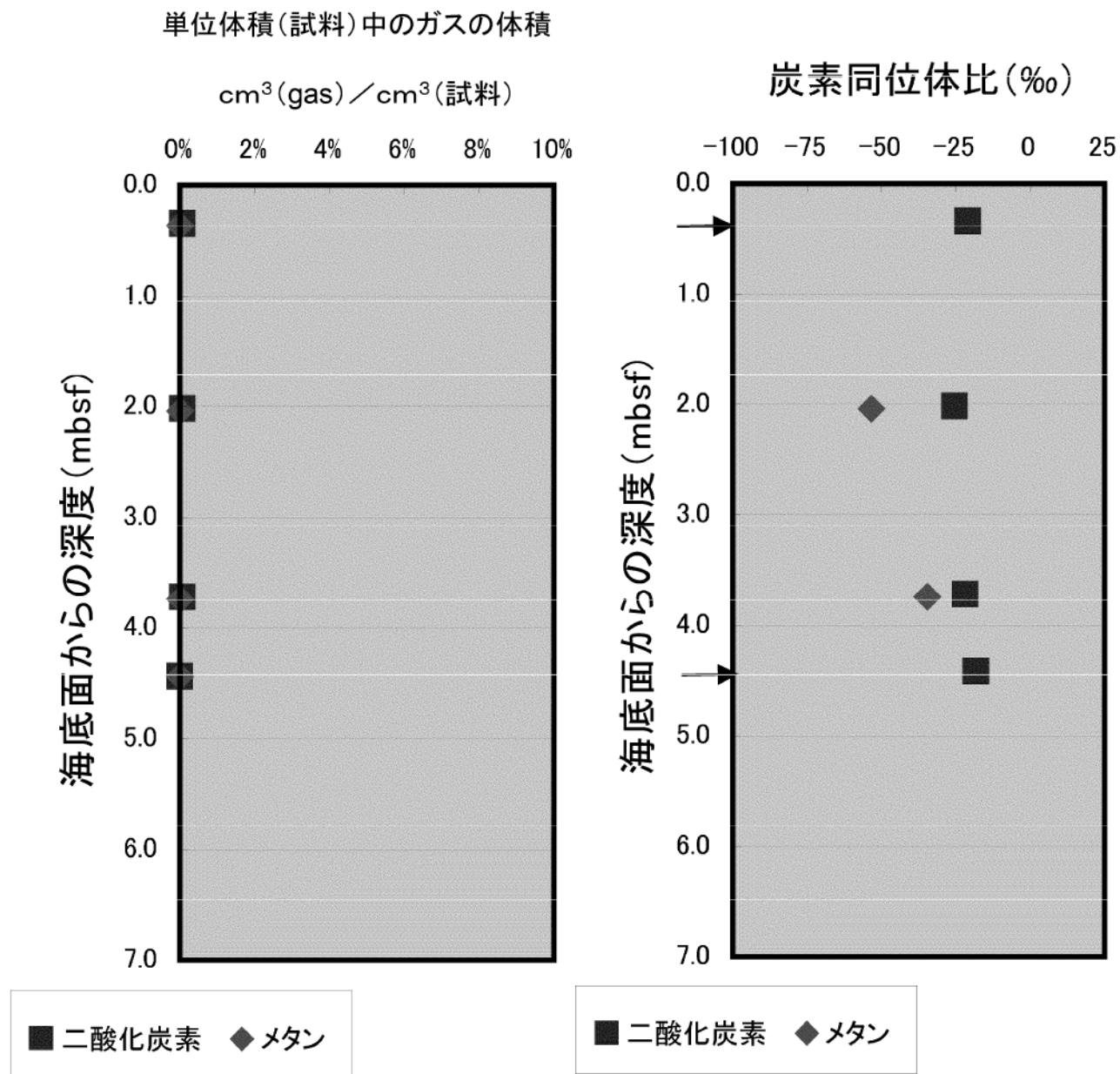


第1.3.155図 保安院調査による変形構造確認箇所付近の海上音波探査結果



- ・深度2～3m以深でメタンガスが増加。(C T画像解析による亀裂帯と整合)
- ・メタン以外の炭化水素ガスが検出されない。
- ・メタンの炭素同位体比は-75‰前後と小さいため、このメタンは有機物の微生物分解により生成したと考えられる。
- ・深度1.0mではメタンの炭素同位体比は重く、二酸化炭素の炭素同位体比は軽くなっている。これはメタンが表層において酸化した可能性がある。

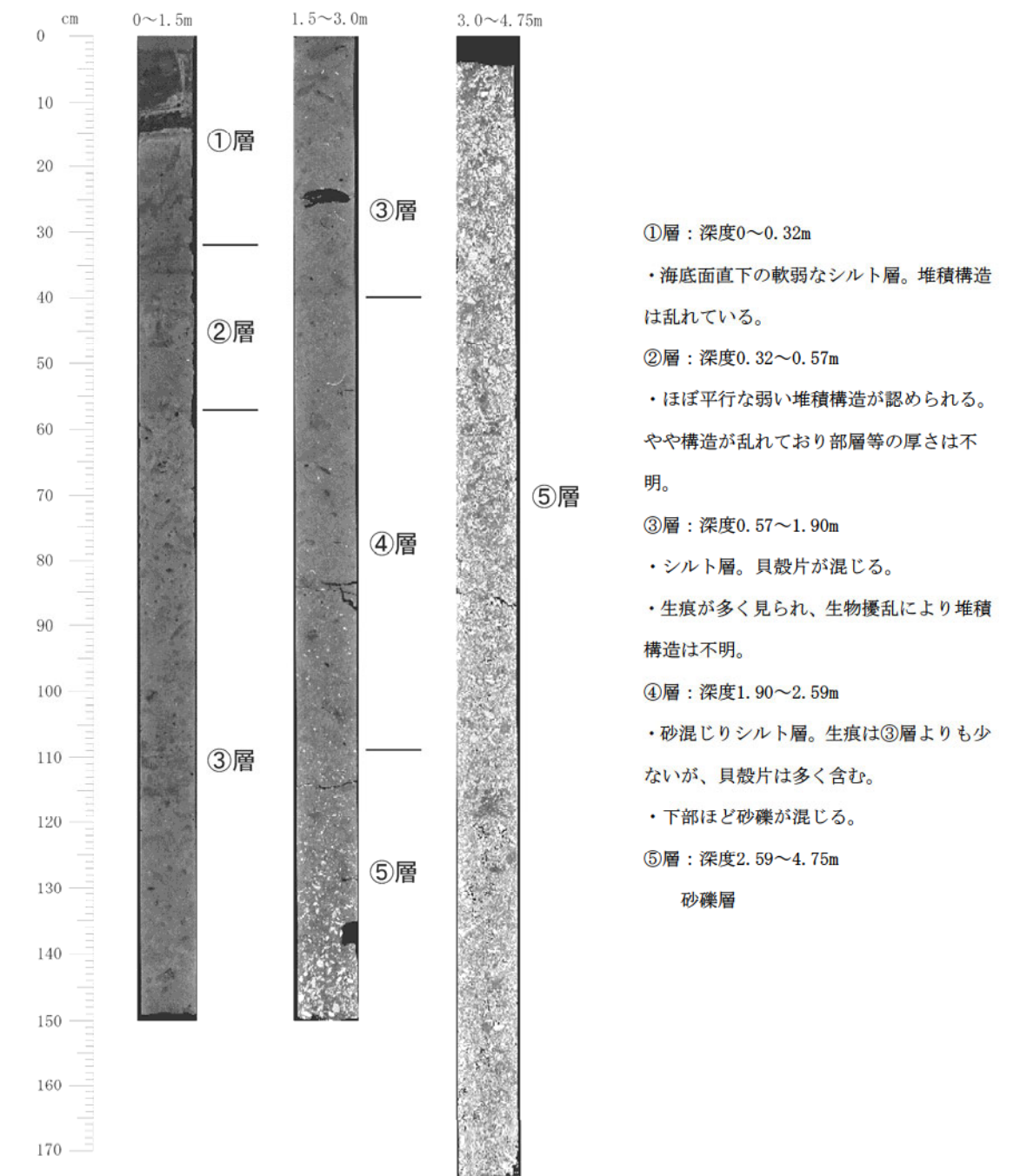
第 1. 3. 156 図(1) 保安院調査による変形構造確認箇所付近のガス分析結果(音波散乱域内、NE3-E1)



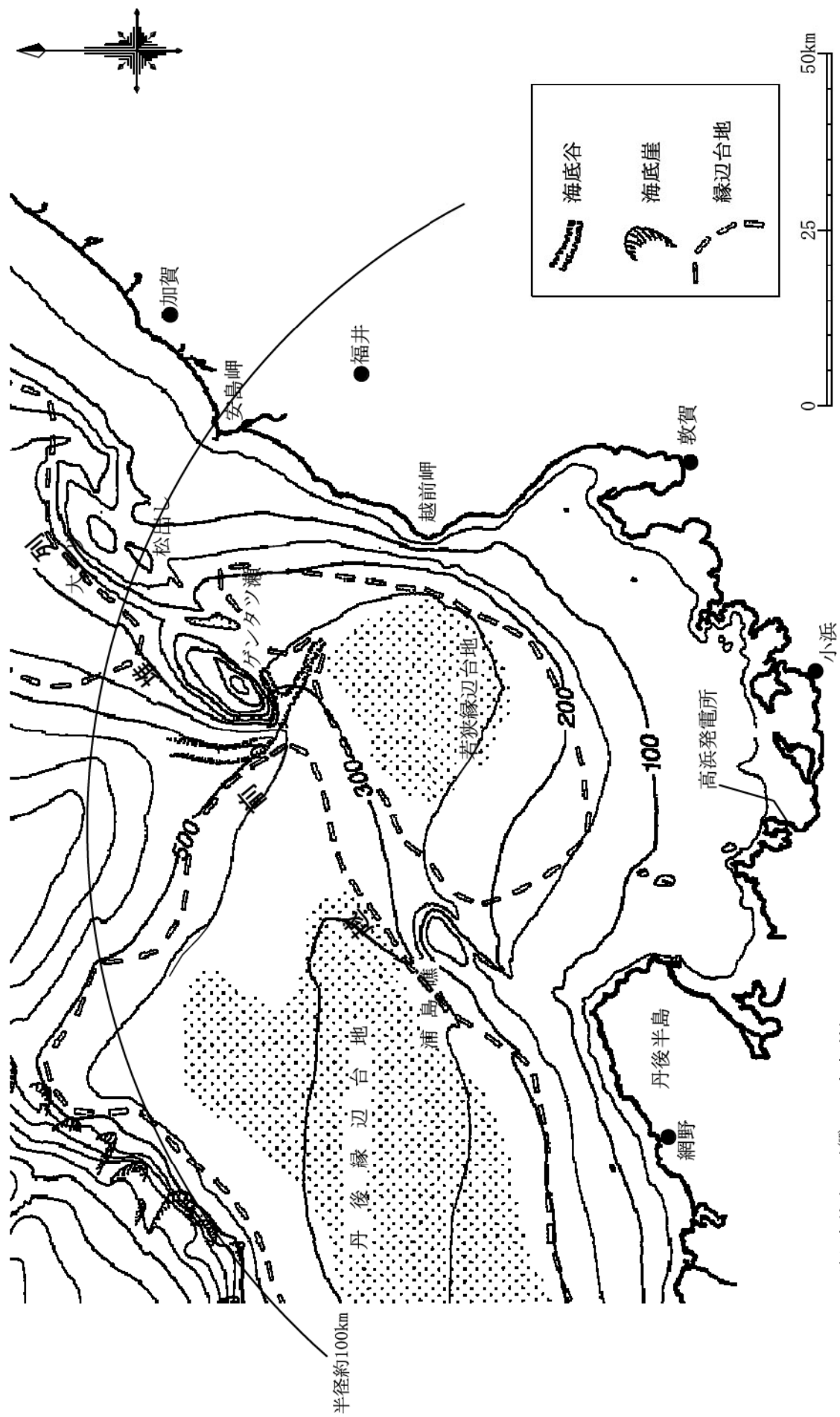
* 炭素同位体比の→はメタン濃度が極めて低いために正確な同位体比が求められない。



・メタンの存在は極めて微量であるが、炭素同位体比から微生物活動により酸化し、軽い二酸化炭素に置き換わっている。

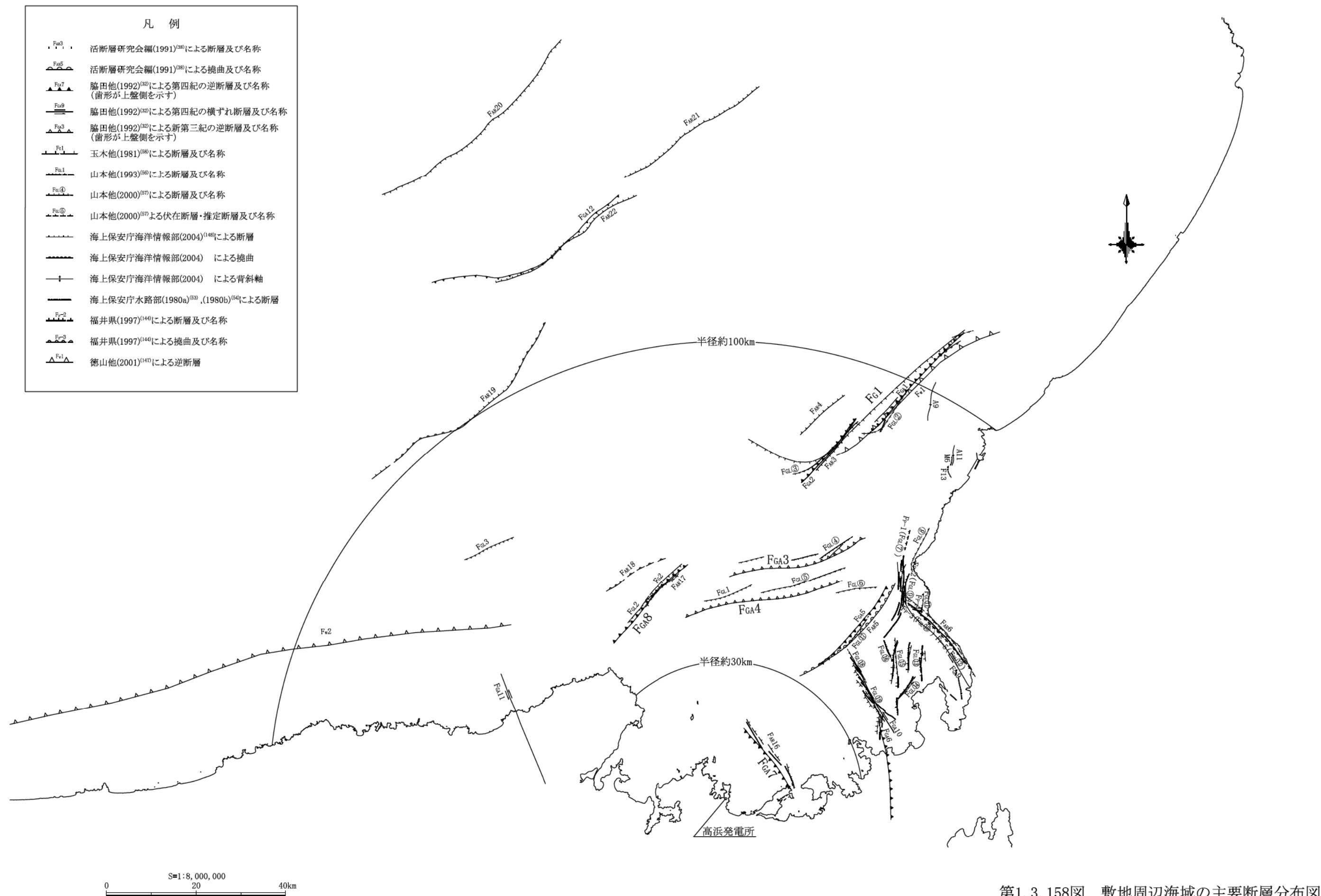


第 1. 3. 156 図(2) 保安院調査による変形構造確認箇所付近のガス分析結果(音波散乱域外、NE2-W4)

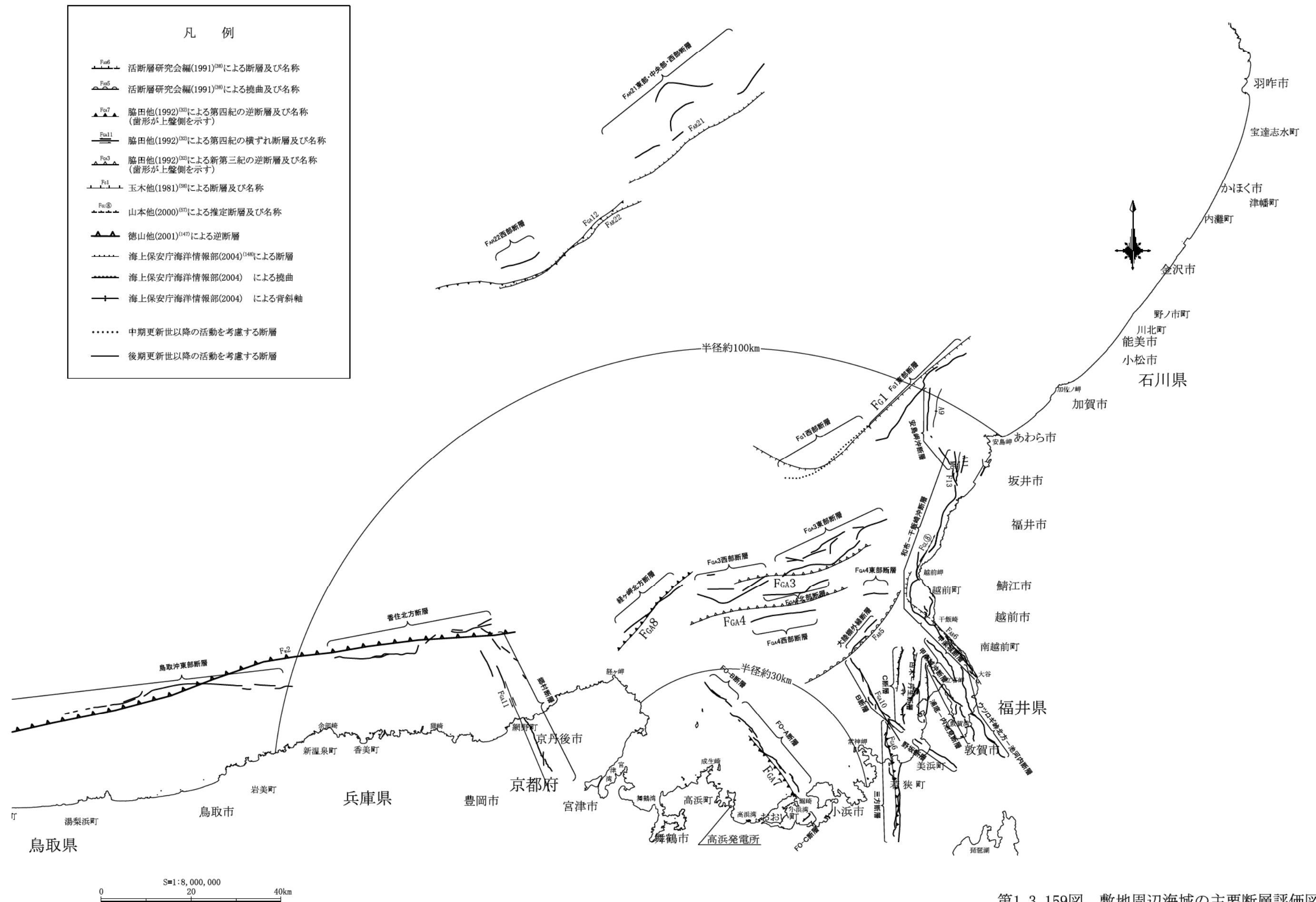


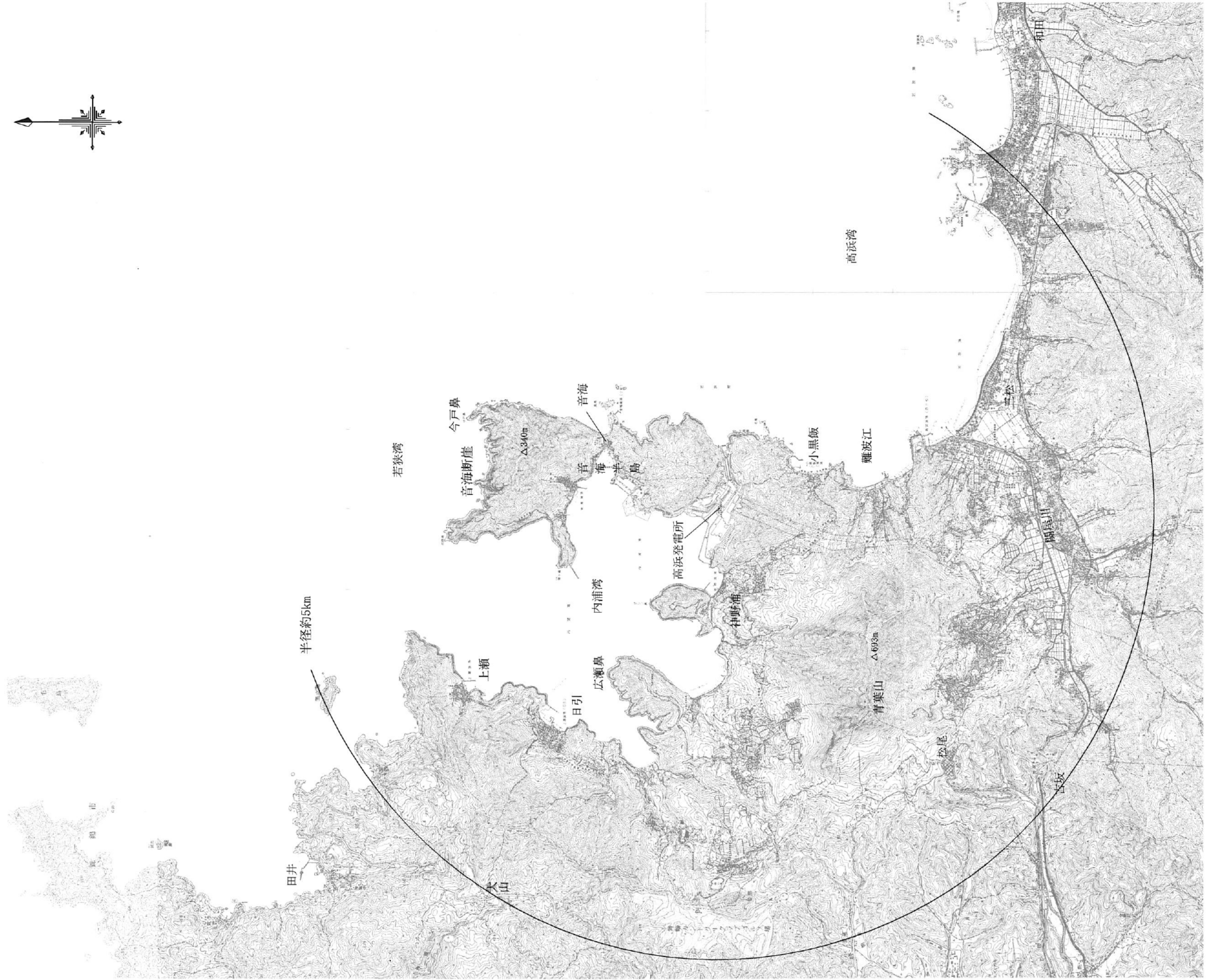
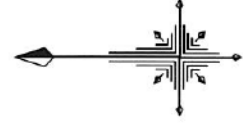
(山本他(2000)⁽⁵⁷⁾ に一部加筆)

第1.3.157図 敷地周辺海域の海底地形



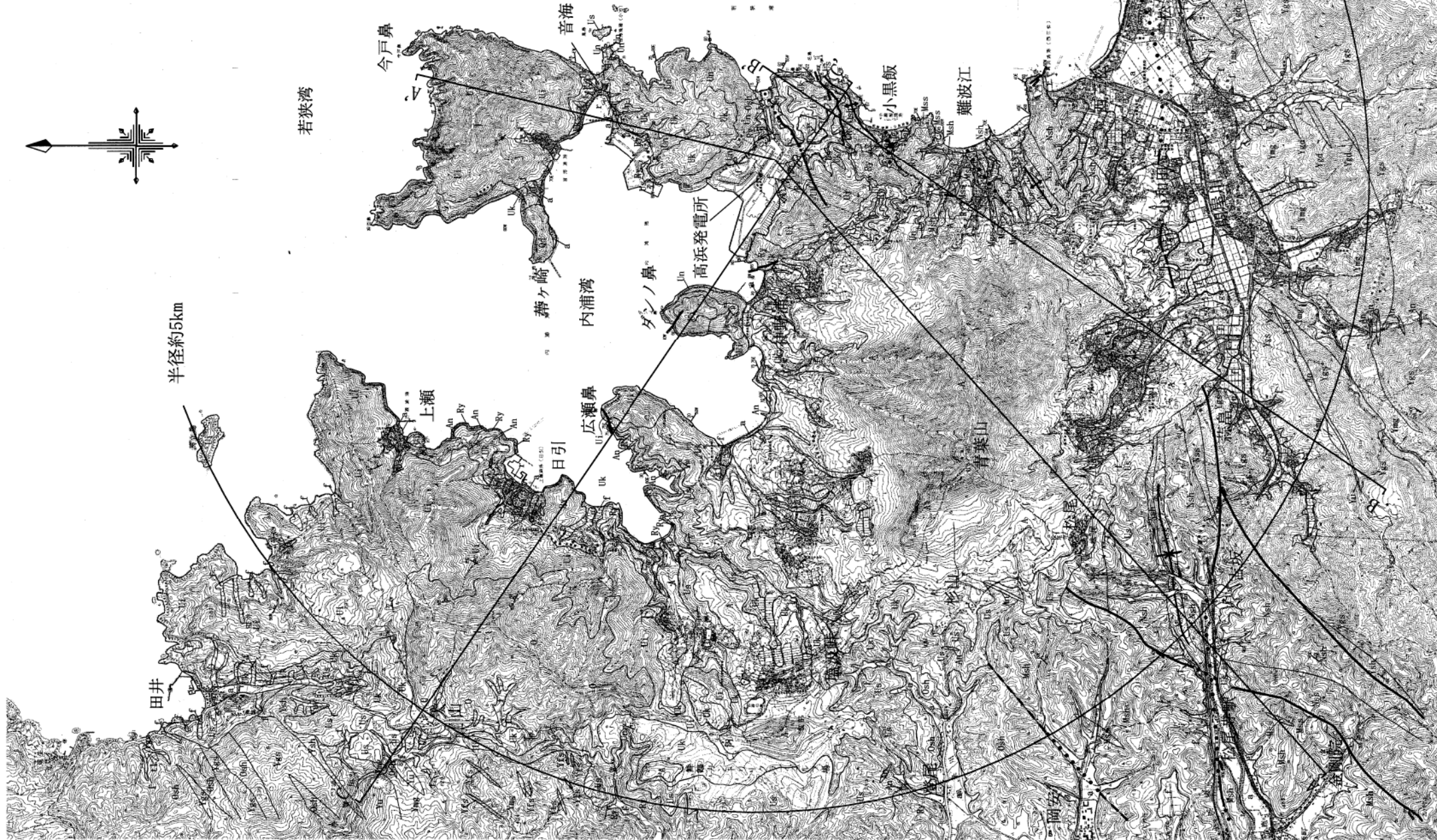
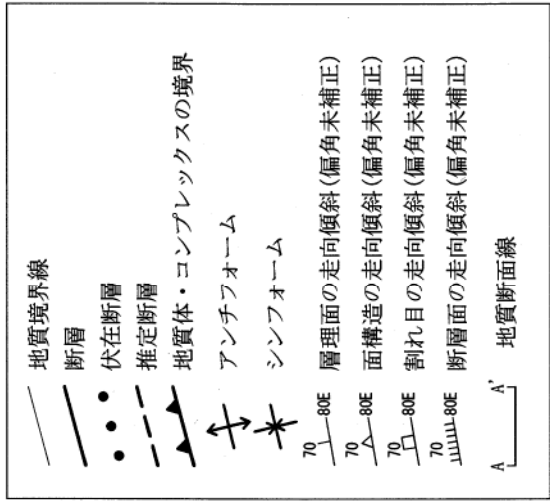
第1. 3. 158図 敷地周辺海域の主要断層分布図





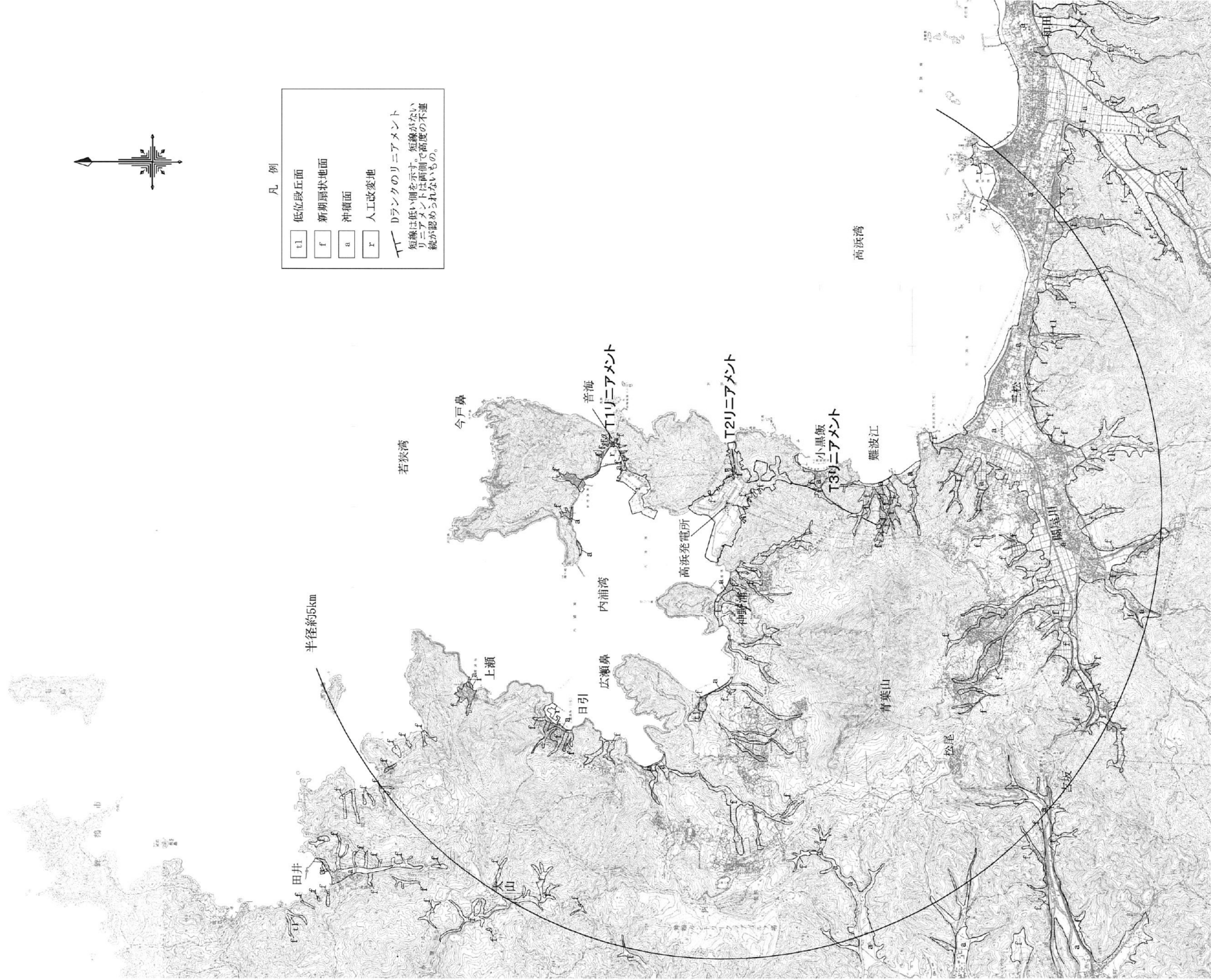
「この地図の一部につき、国土地理院長の承認を得て、
同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

凡 例



地質時代		記号	地層名等	主要構成地層
第四紀	完新世	r	人工改変地	
	更新世	a	沖積層	礫、砂、シルト、粘土
		f	新期扇状地堆積物	礫、砂、シルト
		tl	低位段丘堆積物	礫、砂、シルト
新第三紀	白亜紀	A	青葉山安山岩類	安山岩、凝灰角礫岩
		O	大山安山岩	安山岩、凝灰角礫岩
		Qd	石英閃緑岩	石英閃緑岩
		Ui	今戸鼻層	安山岩、凝灰角礫岩
		Uk	内浦層	泥岩
	三疊紀	Us	下層	凝灰角礫岩、安山岩
		Ush	上層	凝灰角礫岩、安山岩
		Ush	下層	凝灰角礫岩、安山岩
		Ush	上層	凝灰角礫岩、安山岩
		Ush	下層	凝灰角礫岩、安山岩
中生代	白亜紀	Ry	音海流紋岩	流紋岩、流紋岩質凝灰岩
		Nss		砂岩
		Nsh	難波江層群	頁岩
		Na1		砂岩頁岩互層
		UT sh	大飯層(UT2コンプレックス)	頁岩
	ペルム紀	Mss		砂岩
		Msh	舞鶴層群	頁岩
		Mgs		緑色岩類
		Osh	大浦層	頁岩
		Ysh		頁岩
	ペルム紀	Yfs	夜久野イェイト	珪長岩
		Ygd		石英閃緑岩
		Ygs		緑色岩類
		Ymg		変斑れい岩
		Yu		超苦鉄質岩
古生代	新第三紀～白亜紀後期	An	岩脈	安山岩

「この地図の一部につき、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平27情複、第259号)」



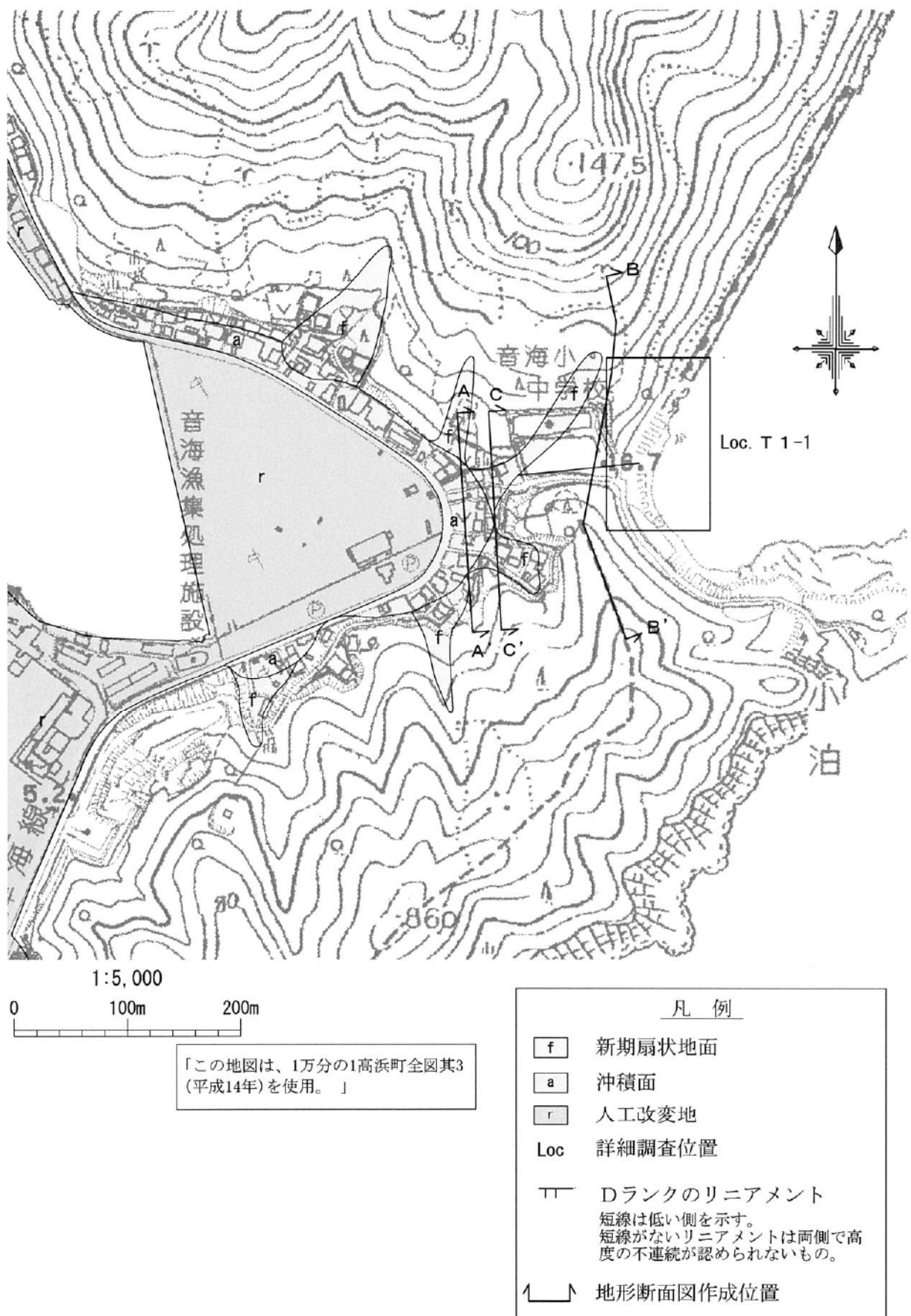
凡 例

t1	低位段丘面
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地
—	Dランクのリニアメント

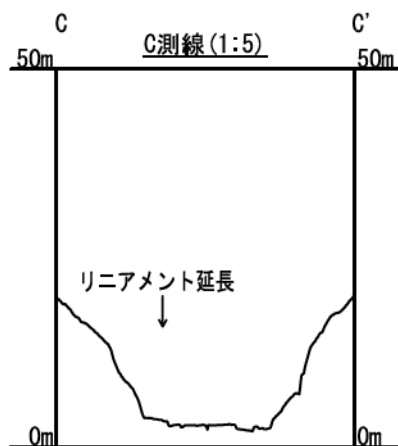
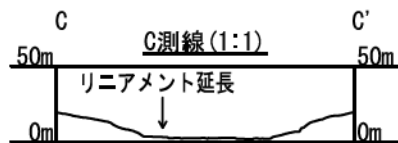
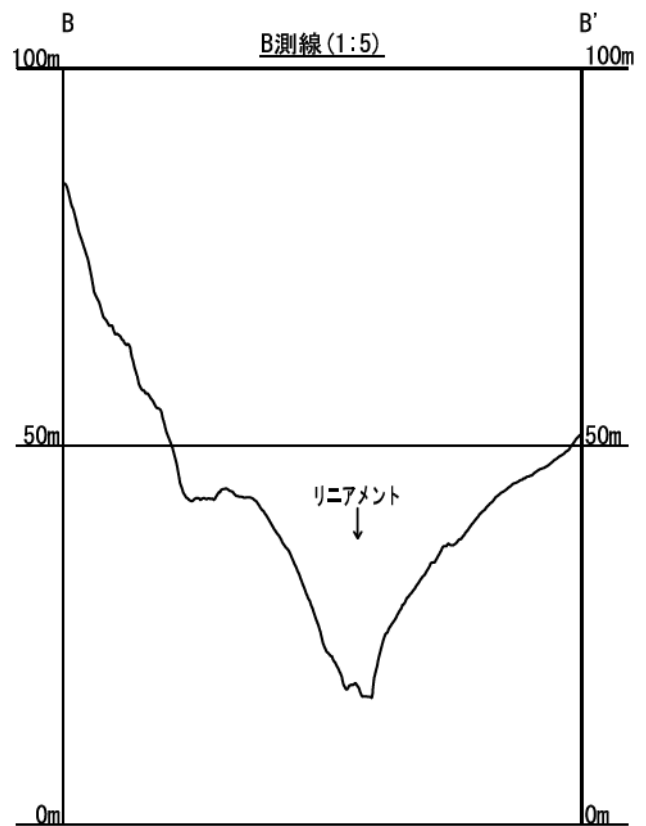
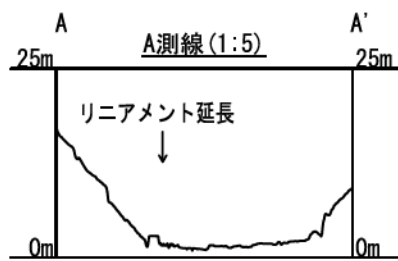
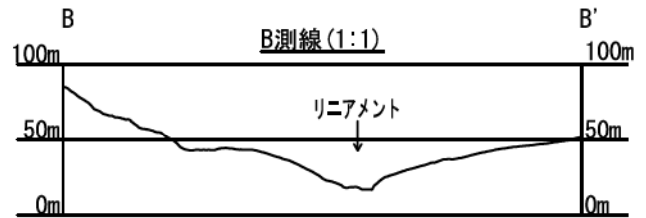
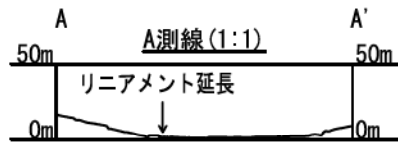
短線は低い側を示す。短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。

「この地図の一部につき、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平26情複、第211号)」

第1.4.4図 敷地近傍の地形調査結果

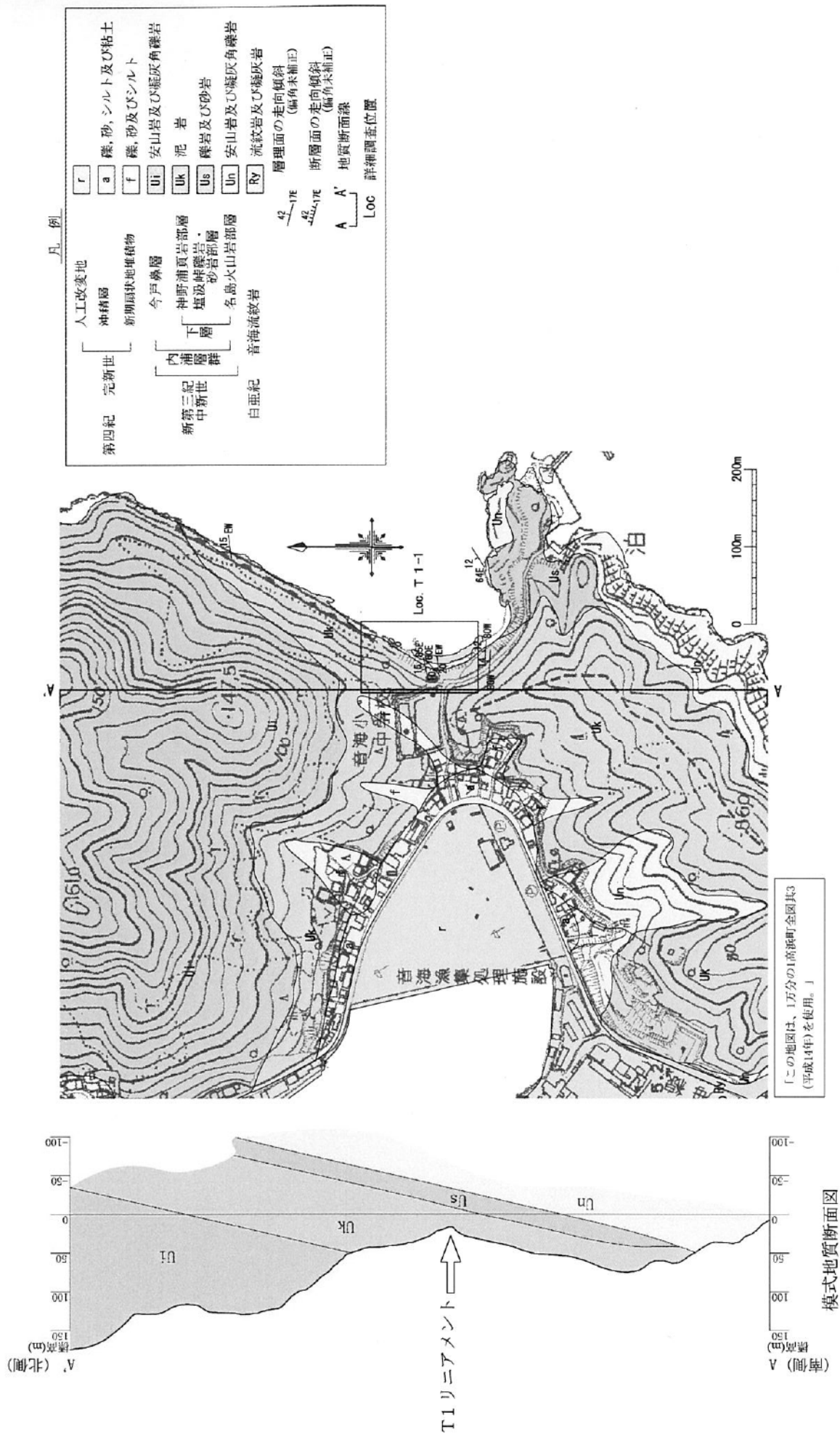


第1.4.5図 (1) T1 リニアメント周辺の地形調査結果

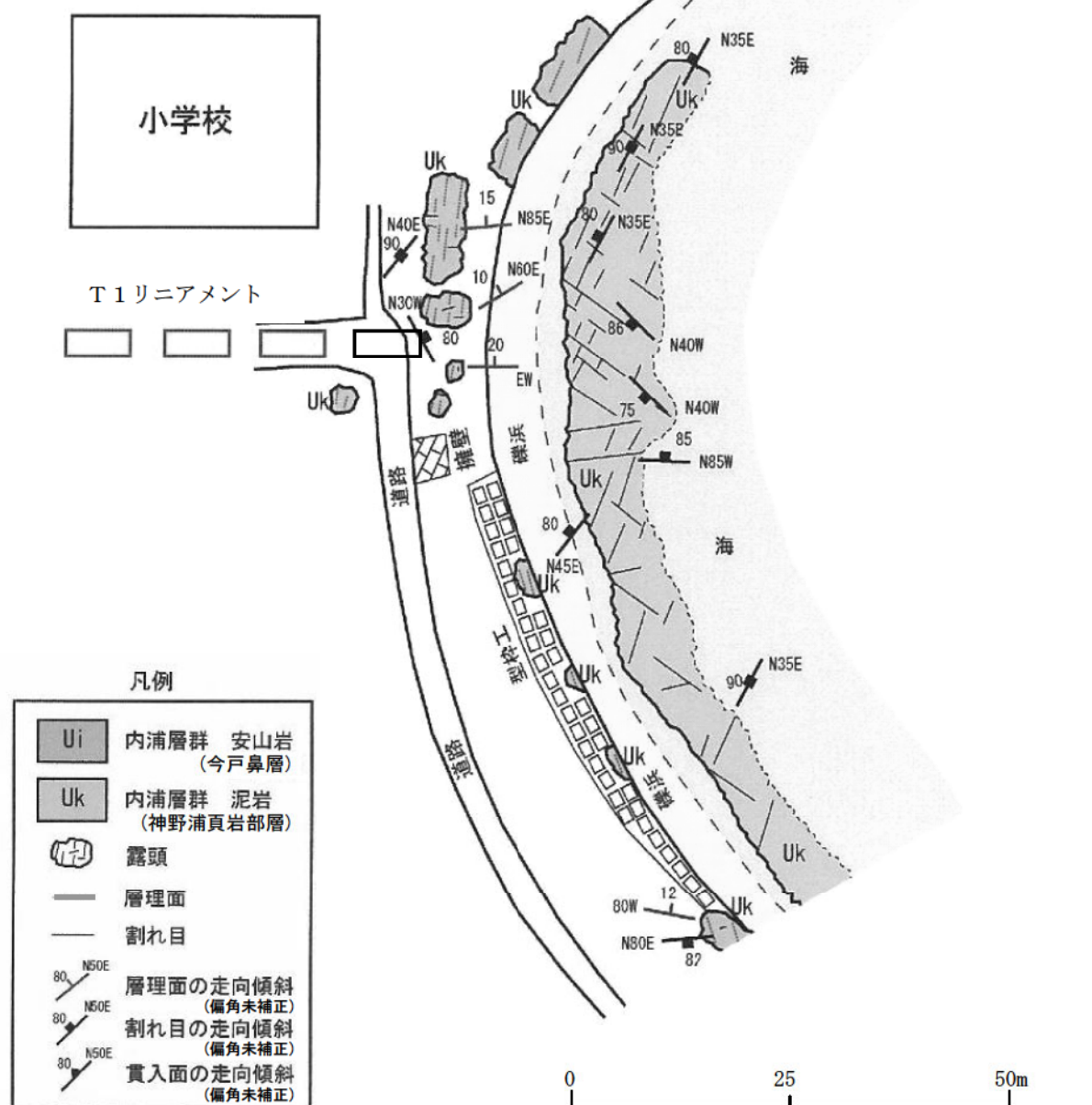


※リニアメントが扇状地面を横断する測線では、縦横比1：5の断面図を作成した。

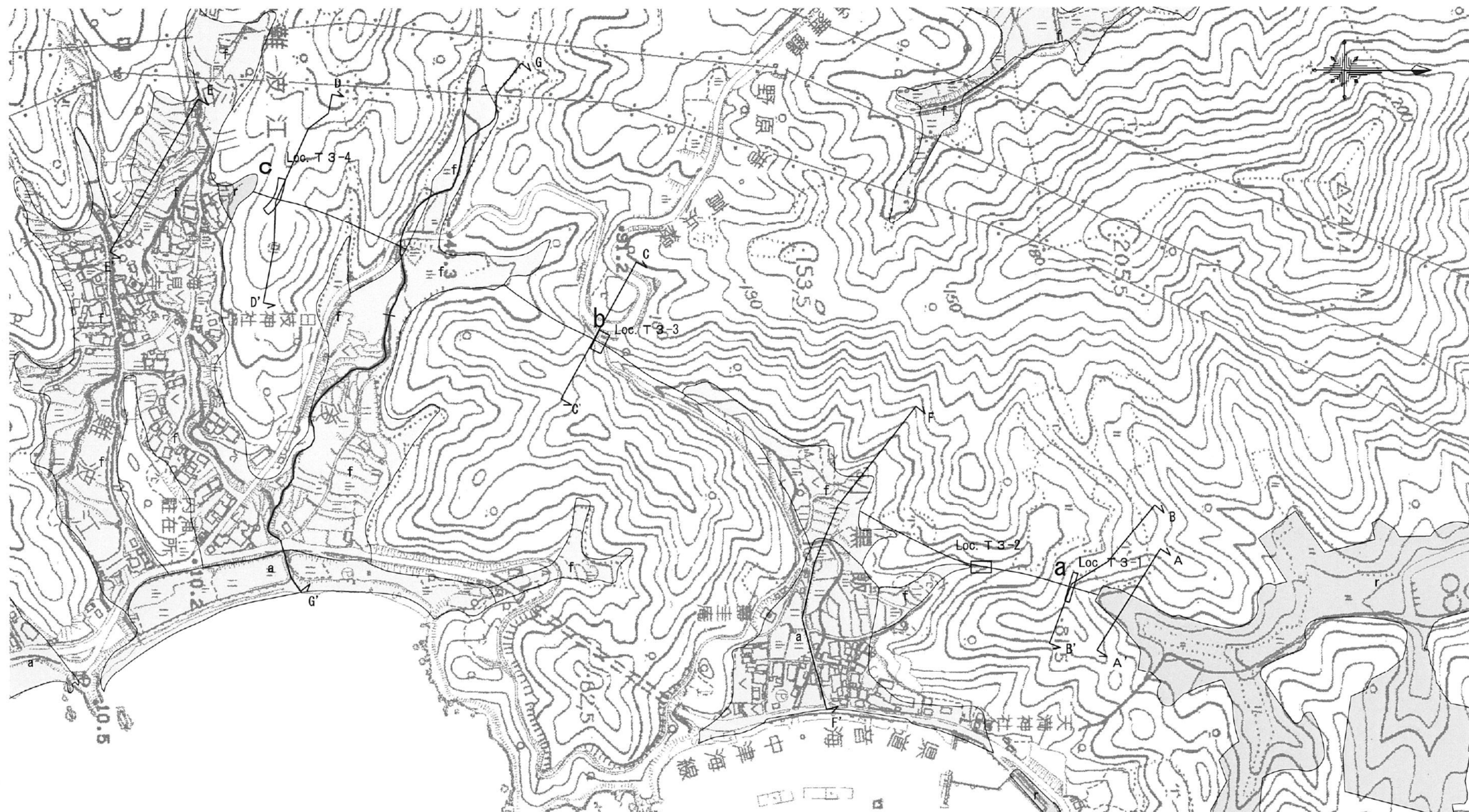
第1.4.5図 (2) T1 リニアメント 航空レーザー測量結果による地形断面図



- ・ T1リニアメント延長線上の東側海岸の水面下で長さ約90mの内浦層群泥岩の連続露頭を確認した。
- ・ T1リニアメントと同走向の層理面と、斜交する割れ目がみられるが、断層は認められない。

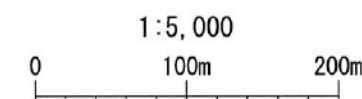


第1.4.7図 T1リニアメント ルートマップ (Loc. T1-1)

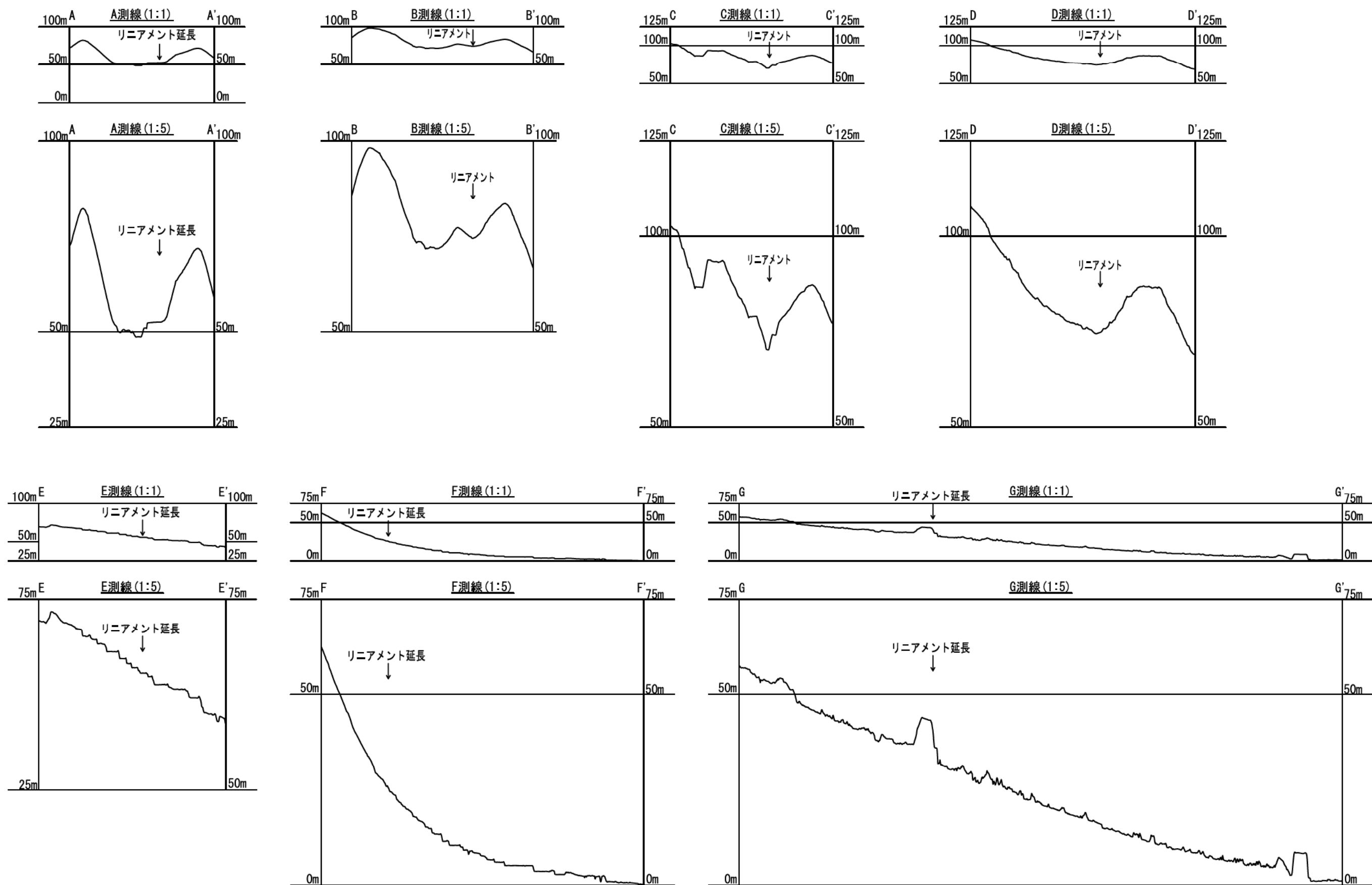


凡 例	
f	新期扇状地面
a	沖積面
r	人工改変地
b	リニアメント判読要素位置
Loc	詳細調査位置 (スケッチ・ルートマップ)
—	Dランクのリニアメント
短線は低い側を示す。 短線がないリニアメントは両側で高度の不連続が認められないもの。	
↗ ↘	地形断面図作成位置

「この地図は、1万分の1高浜町全図其3 (平成14年) を使用。」

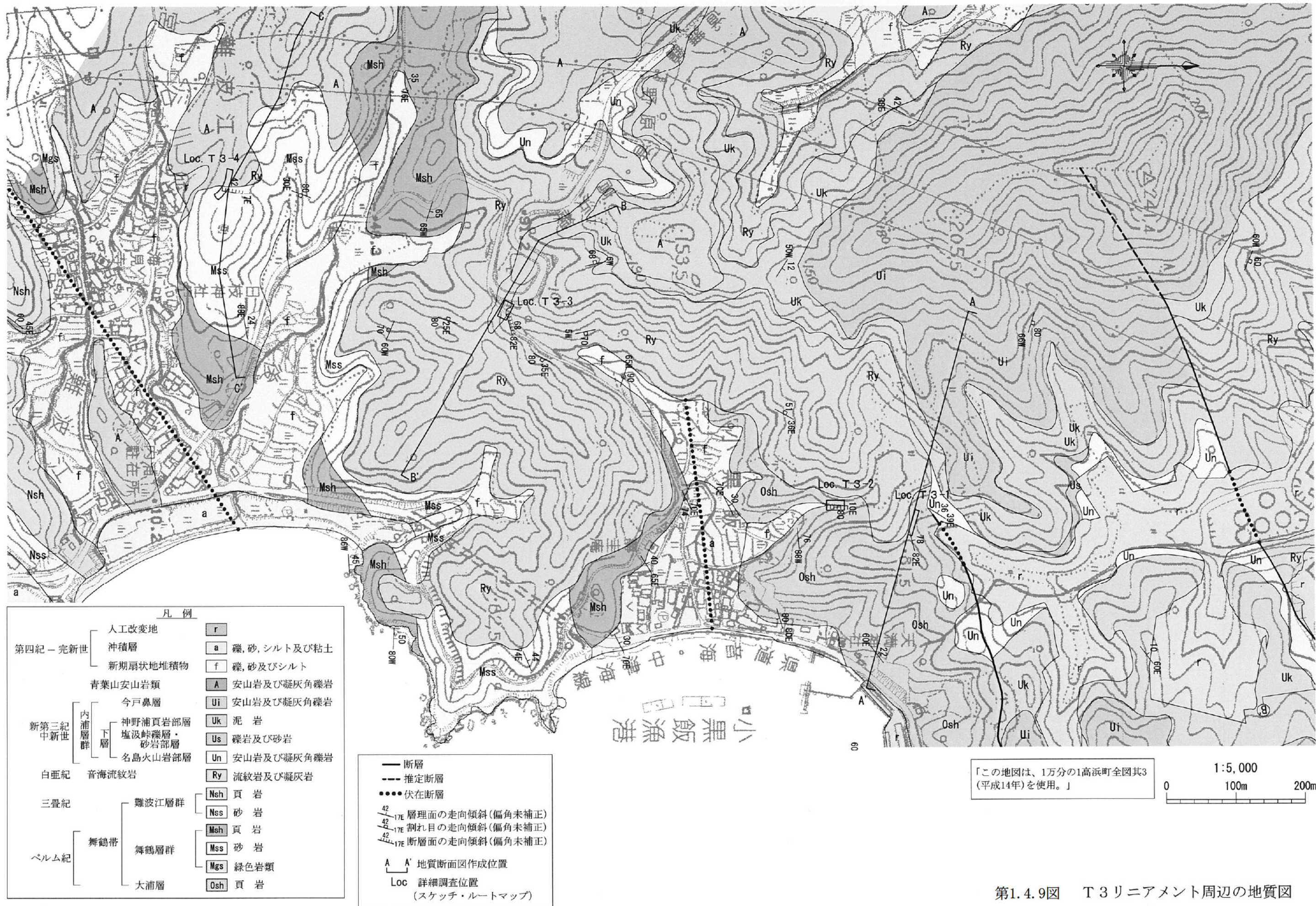


第1.4.8図 (1) T3リニアメント周辺の地形調査結果

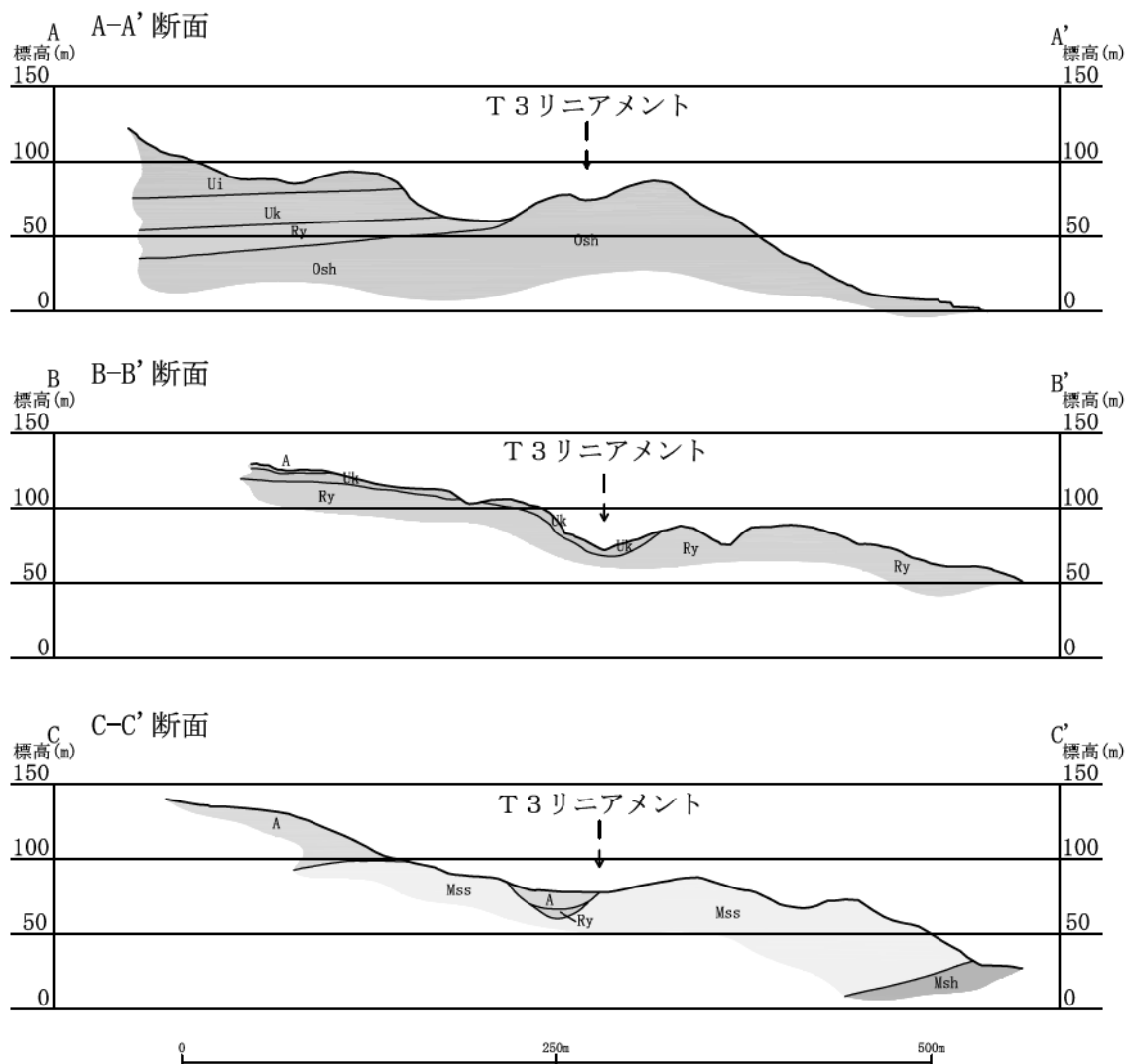


※リニアメントが扇状地面を横断する測線では、縦横比 1 : 5 の断面図を作成した。

第1.4.8図 (2) T3 リニアメント 航空レーザー測量結果による地形断面図



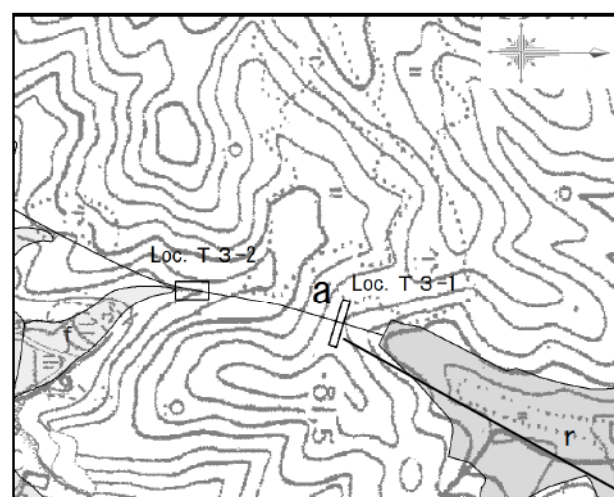
第1.4.9図 T3リニアメント周辺の地質図



凡 例		
A	安山岩及び凝灰角礫岩	} 青葉山安山岩類
Ui	安山岩及び凝灰角礫岩	
Uk	泥 岩	} 内浦層群
Ry	流紋岩及び凝灰岩	
Msh	頁 岩	} 舞鶴層群
Mss	砂 岩	
Osh	頁 岩	} 大浦層

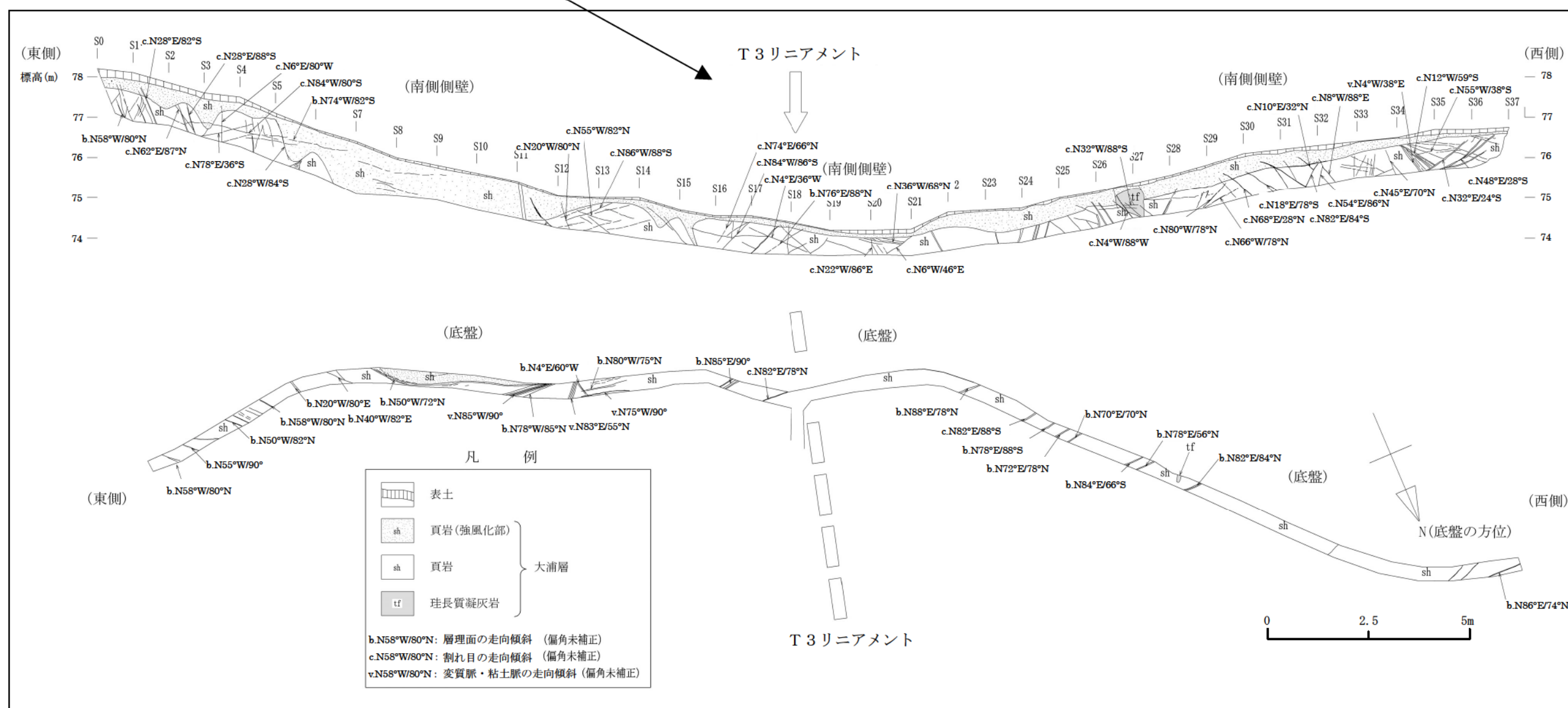
断面位置は第3. 3. 9図に示す。

第1. 4. 10図 T 3 リニアメント周辺の地質断面図

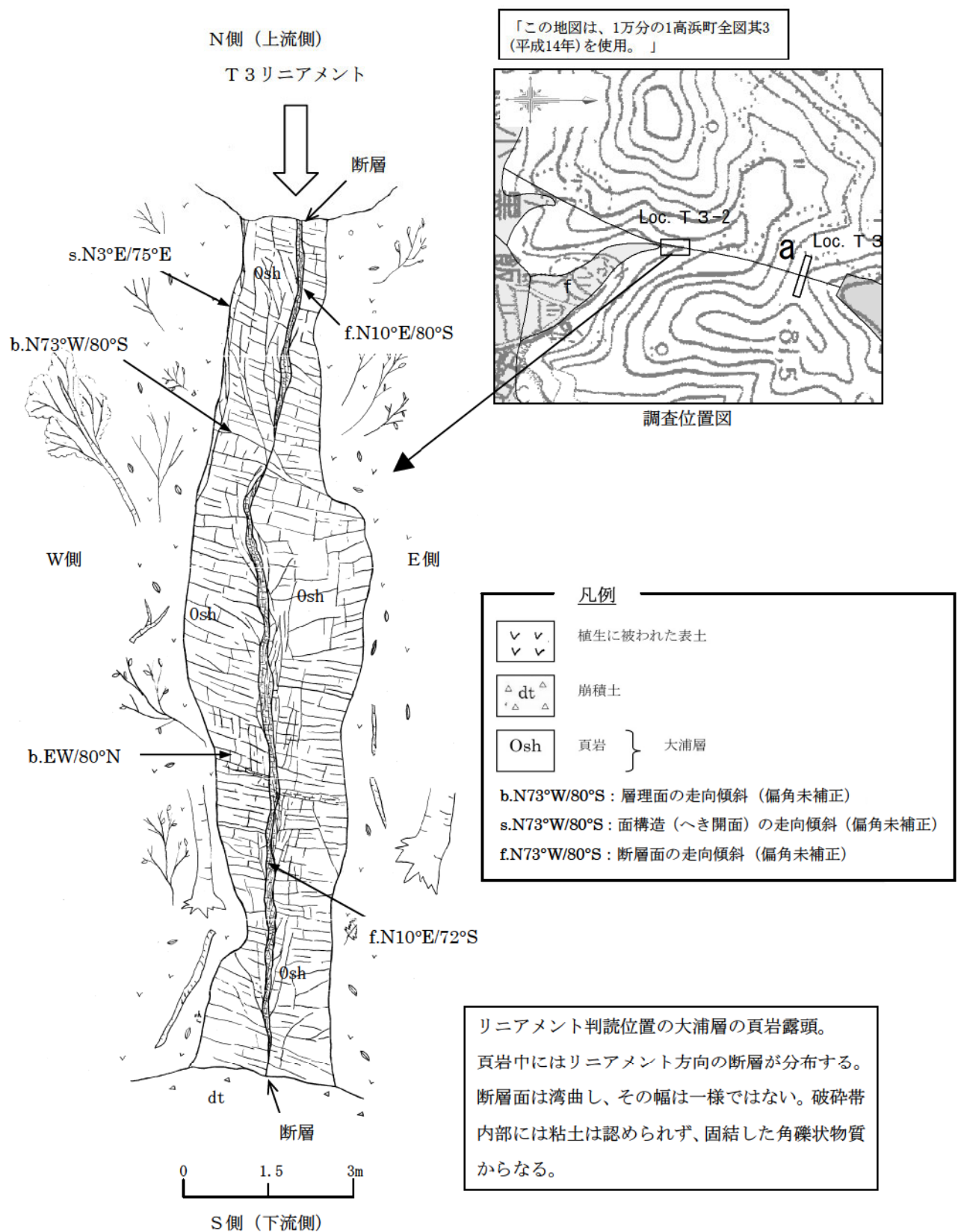


「この地図は、1万分の1高浜町全図其3
(平成14年)を使用。」

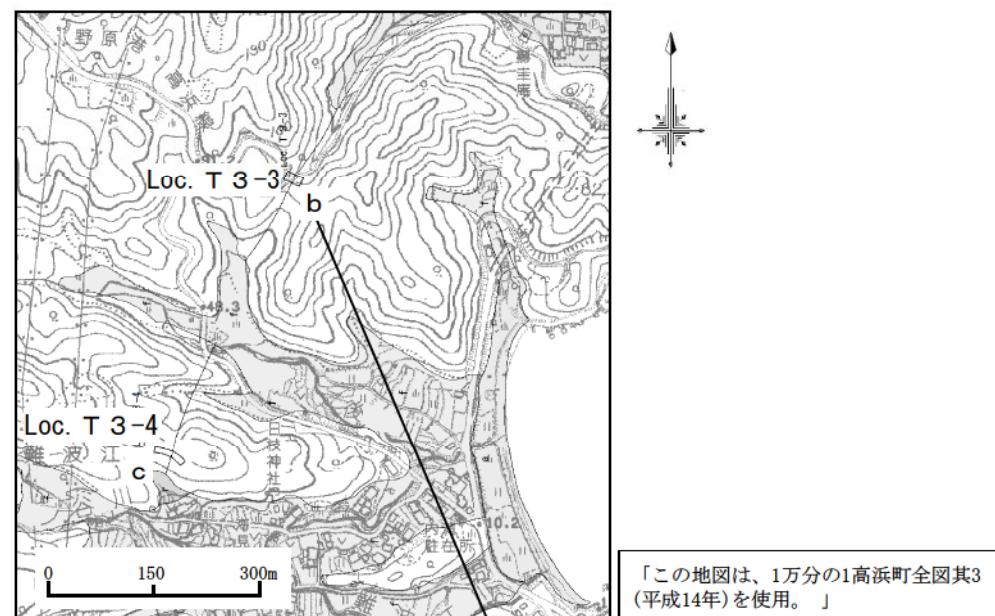
高浜発電所敷地南端付近の鞍部(a地点)においてピット調査を行った結果、リニアメント直交方向の長さ約37m区間の大浦層頁岩中に断層がないことを確認した。



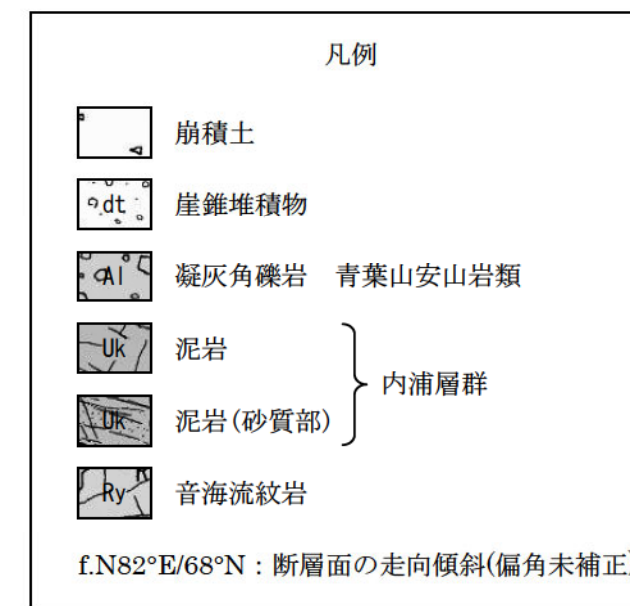
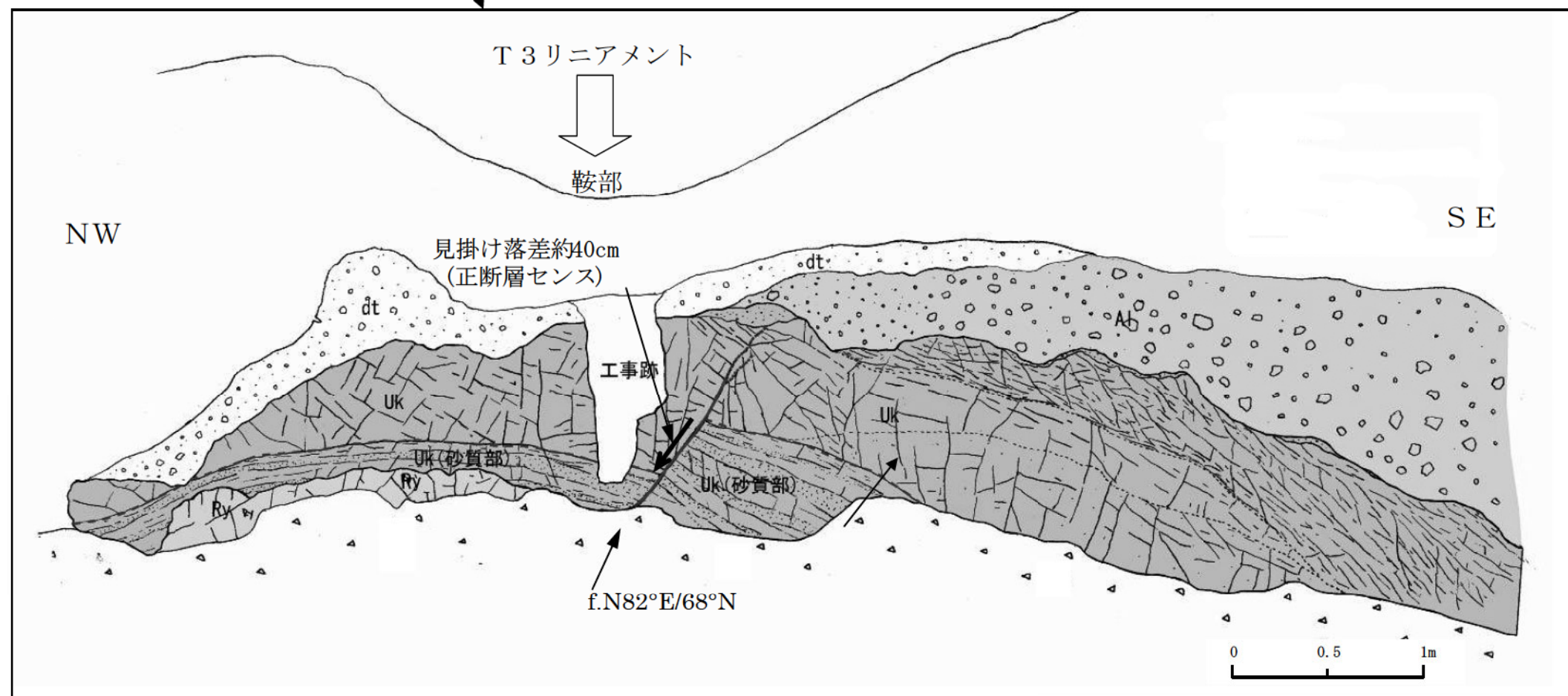
第1.4.11図 T3リニアメント ピット南側側壁及び底盤スケッチ (Loc. T3-1)



第1.4.12図 T3 リニアメント 露頭スケッチ (Loc. T3-2)

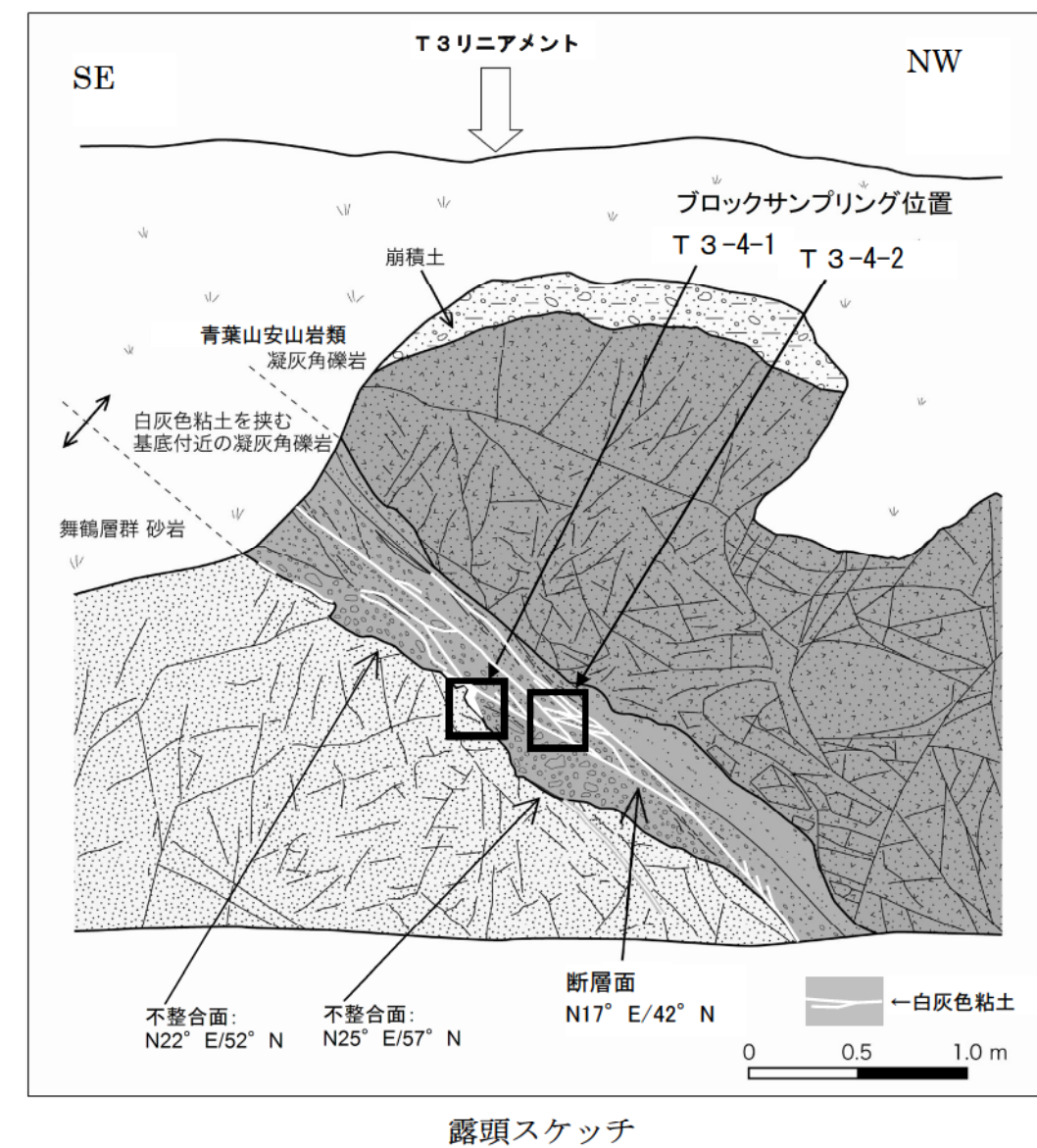
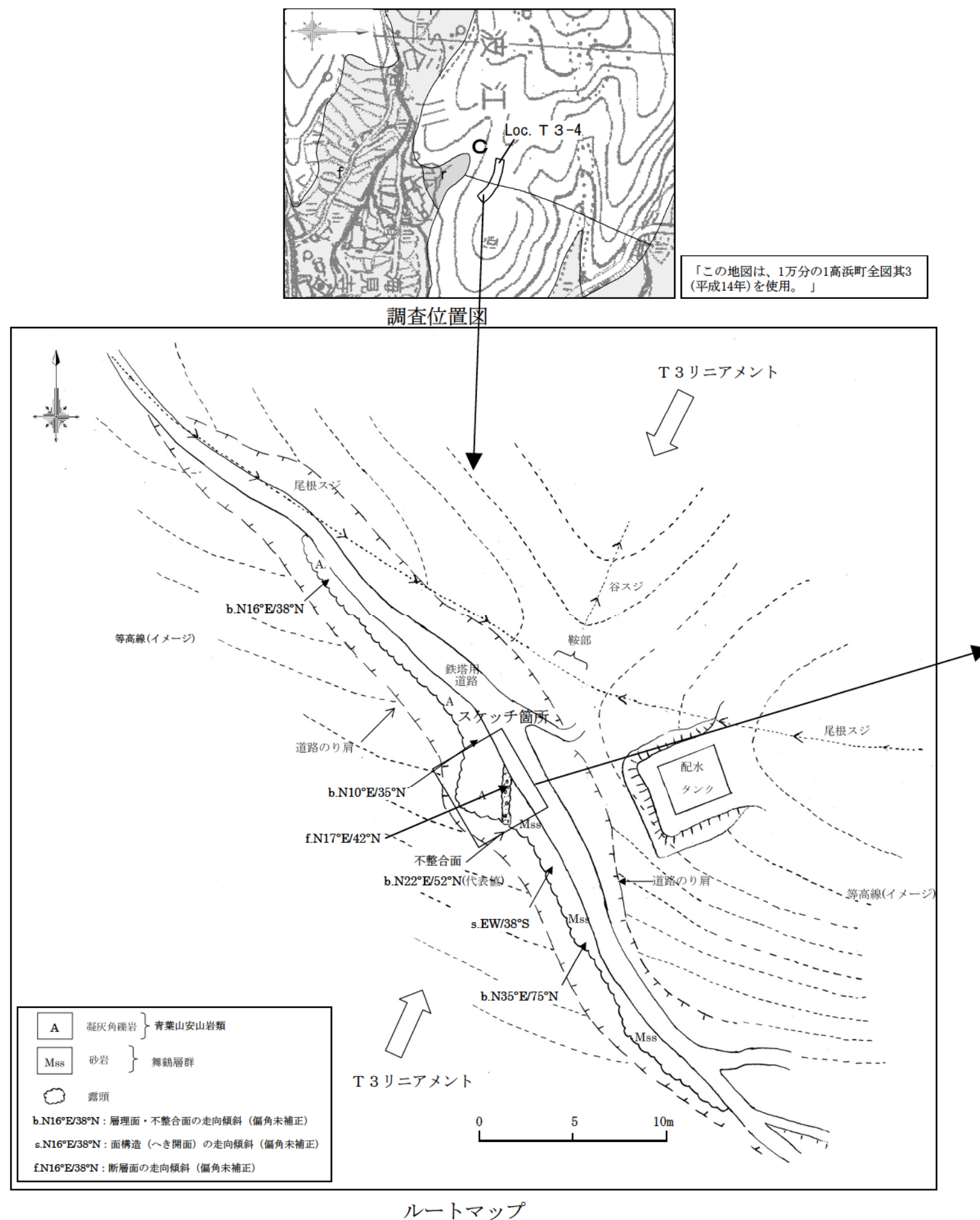


調査位置図



リニアメント中央部の鞍部における剥ぎ取り調査の結果、リニアメント判読位置にリニアメントと斜交する断層が確認された。この断層面は湾曲しており、正断層センスの変位が認められたことから、現広域応力場との関係より後期更新世以降の活動を示唆する断層でないと判断する。

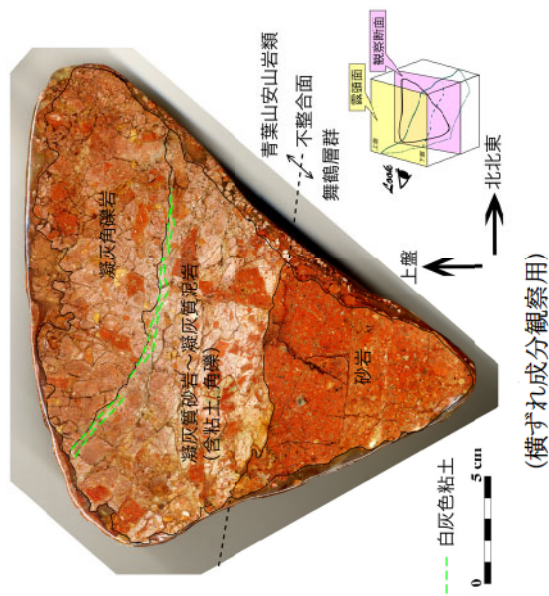
第1.4.13図 T3 リニアメント 露頭スケッチ (Loc. T 3-3)



リニアメント判読位置に長さ約 38m の連続露頭が認められる。
リニアメント判読位置に青葉山安山岩類の凝灰角礫岩と舞鶴層群砂岩との境界が認められる。境界面は凹凸があり、基底付近には礫質部がある。
青葉山安山岩類の凝灰角礫岩と舞鶴層群砂岩との境界付近（T 3-4-1）と、灰白色粘土を挟む凝灰角礫岩（T 3-4-2）からのブロックサンプリングを実施。

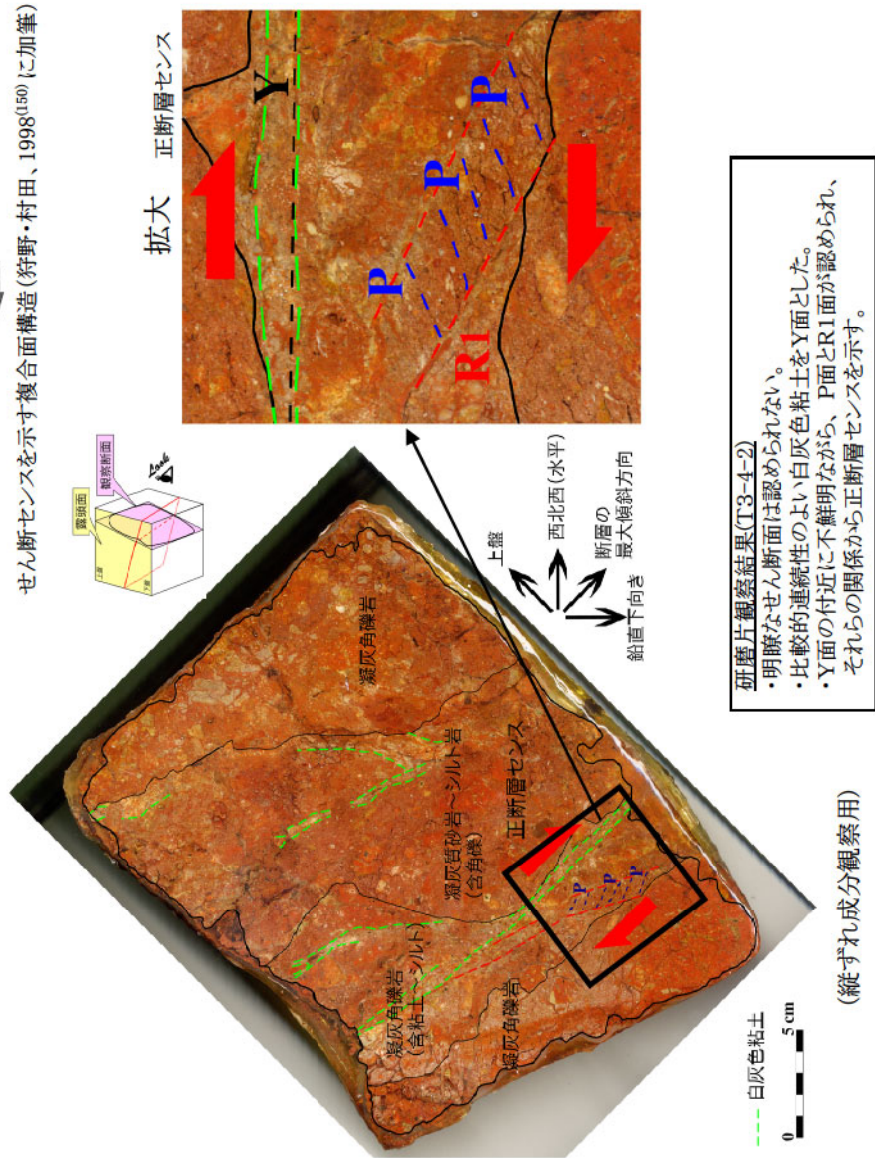
第1.4.14図 T3リニアメント ルートマップ・露頭スケッチ(Loc. T3-4)

T3-4-1 研磨片
〔舞鶴層群と青葉山安山岩類の境界付近〕



研磨片観察結果(T3-4-1)
・舞鶴層群と青葉山安山岩類の境界はせん断面や礫の定向配列が認められない。

T3-4-2 研磨片
〔白灰色粘土を挟む箇所〕



(縦ずれ成分観察用)

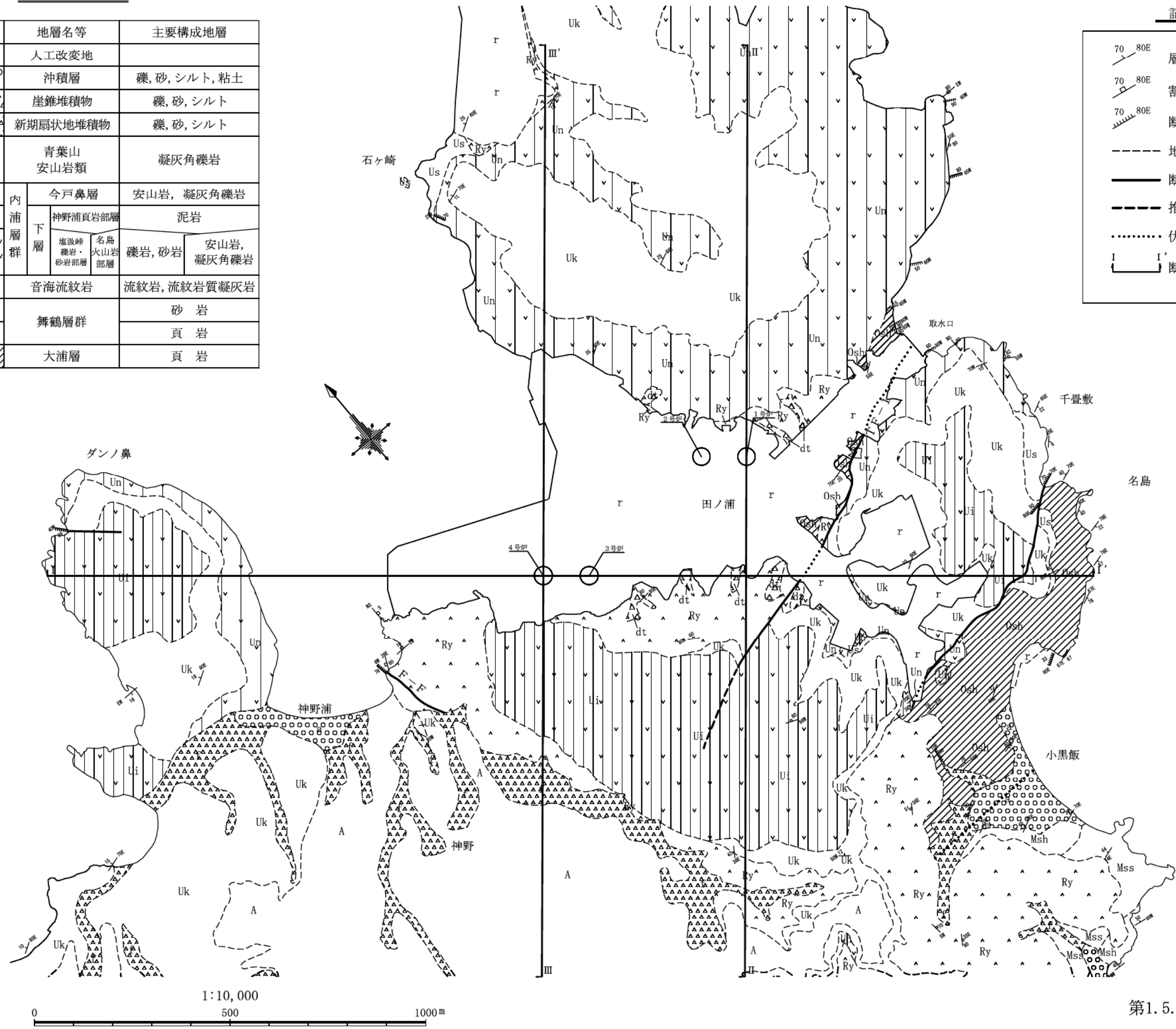
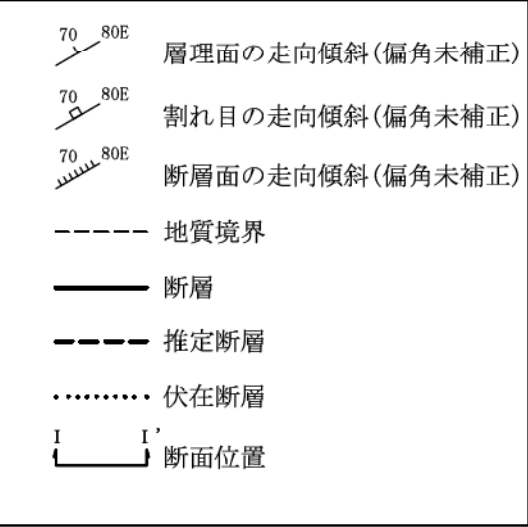


第1.5.2図 敷地の地形図

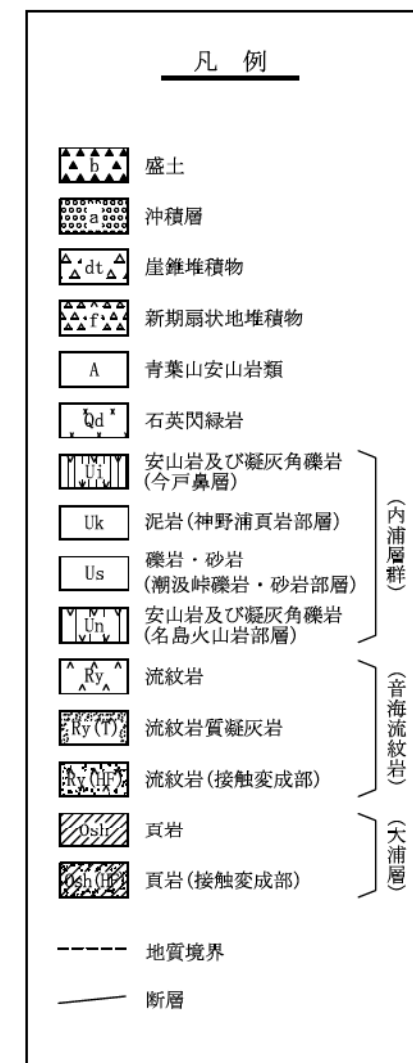
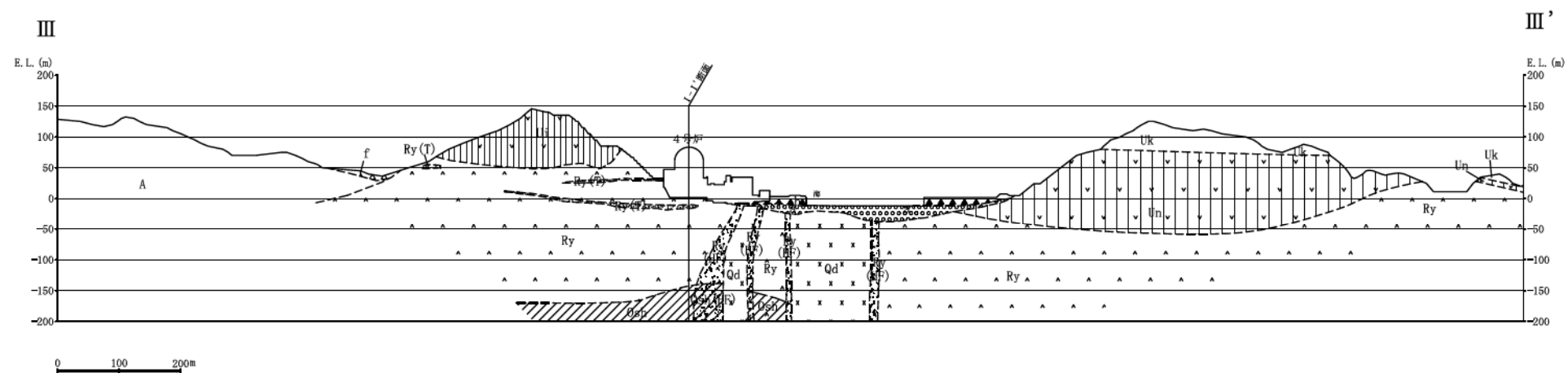
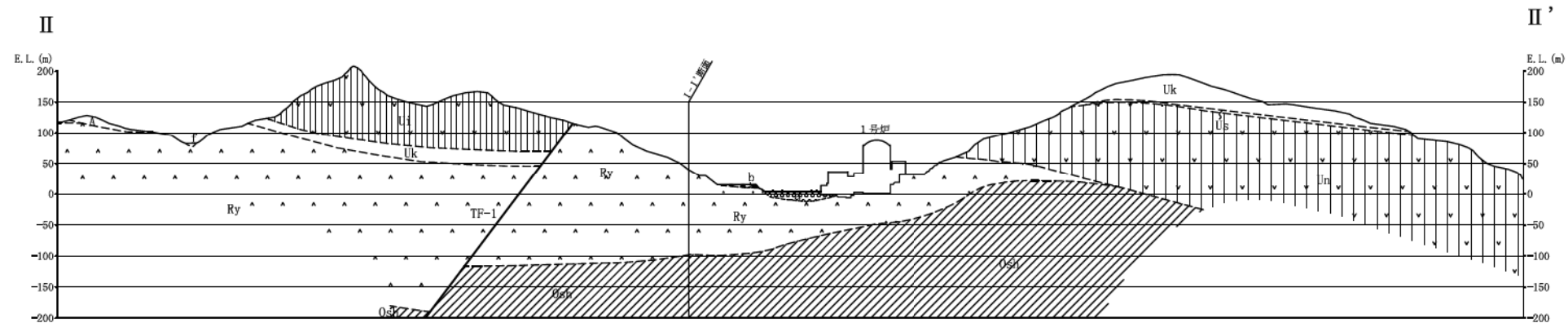
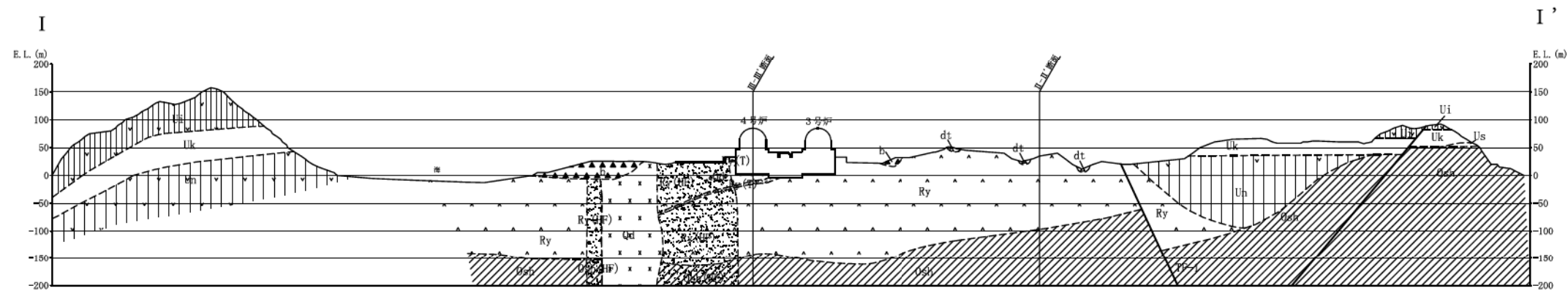
地質凡例

地質時代			記号	地層名等	主要構成地層
新	第四紀	完新世	r	人工改变地	
			○ ○ _a ○	沖積層	礫, 砂, シルト, 粘土
			△ △ _{dt} △	崖錐堆積物	礫, 砂, シルト
			△ △ _f △	新期扇状地堆積物	礫, 砂, シルト
代	新第三紀		A	青葉山 安山岩類	凝灰角礫岩
			↓ ↓ _{Ui} ↓	内 浦 層	今戸鼻層 安山岩, 凝灰角礫岩
			Uk	神野浦頁岩部層	泥岩
			Us ↓ ↓ _{Ur} ↓	下 層 塩浜峠 礫岩・ 砂岩部層 名島 火山岩 部層	礫岩, 砂岩 安山岩, 凝灰角礫岩
中生代	白亜紀		^ ^ _{Ry} ^	音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩
古 生 代	ペルム紀		Mss	舞鶴層群	砂 岩
			Msh		頁 岩
			〰 〰 _{Osh}	大浦層	頁 岩

記号凡例



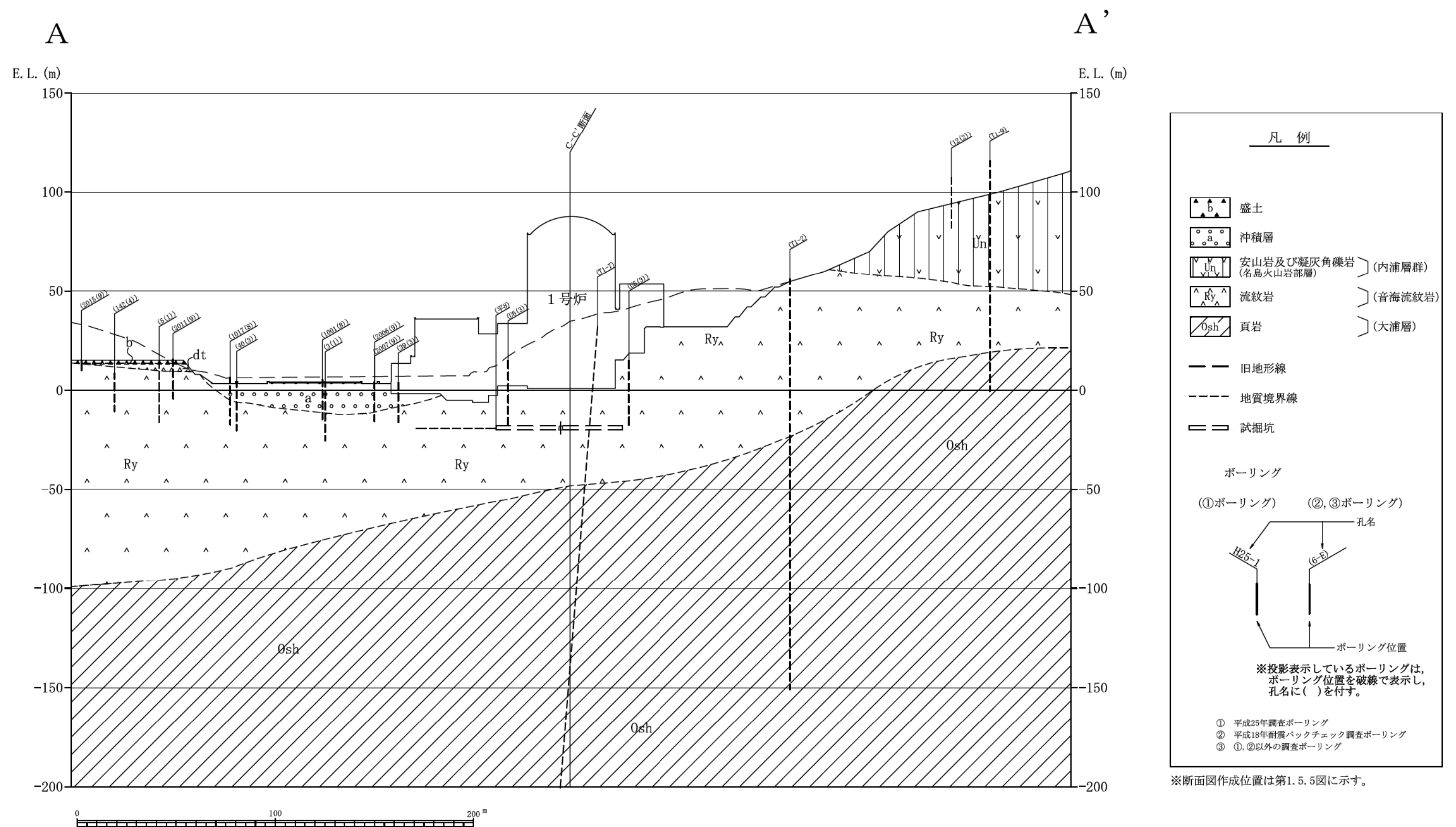
第1.5.3図 敷地の地質図
6-1-452



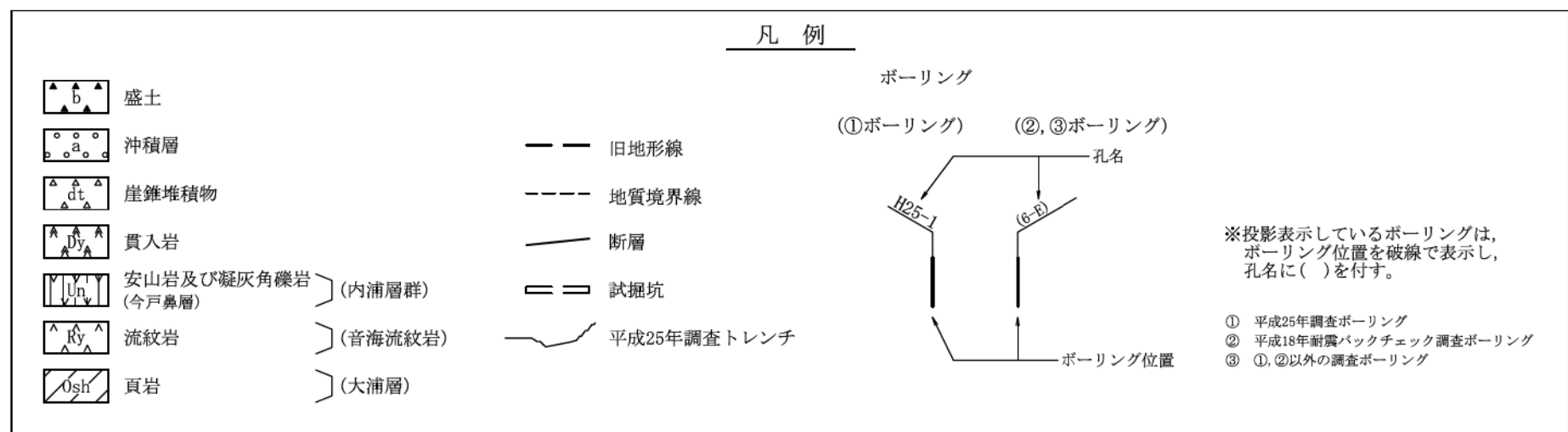
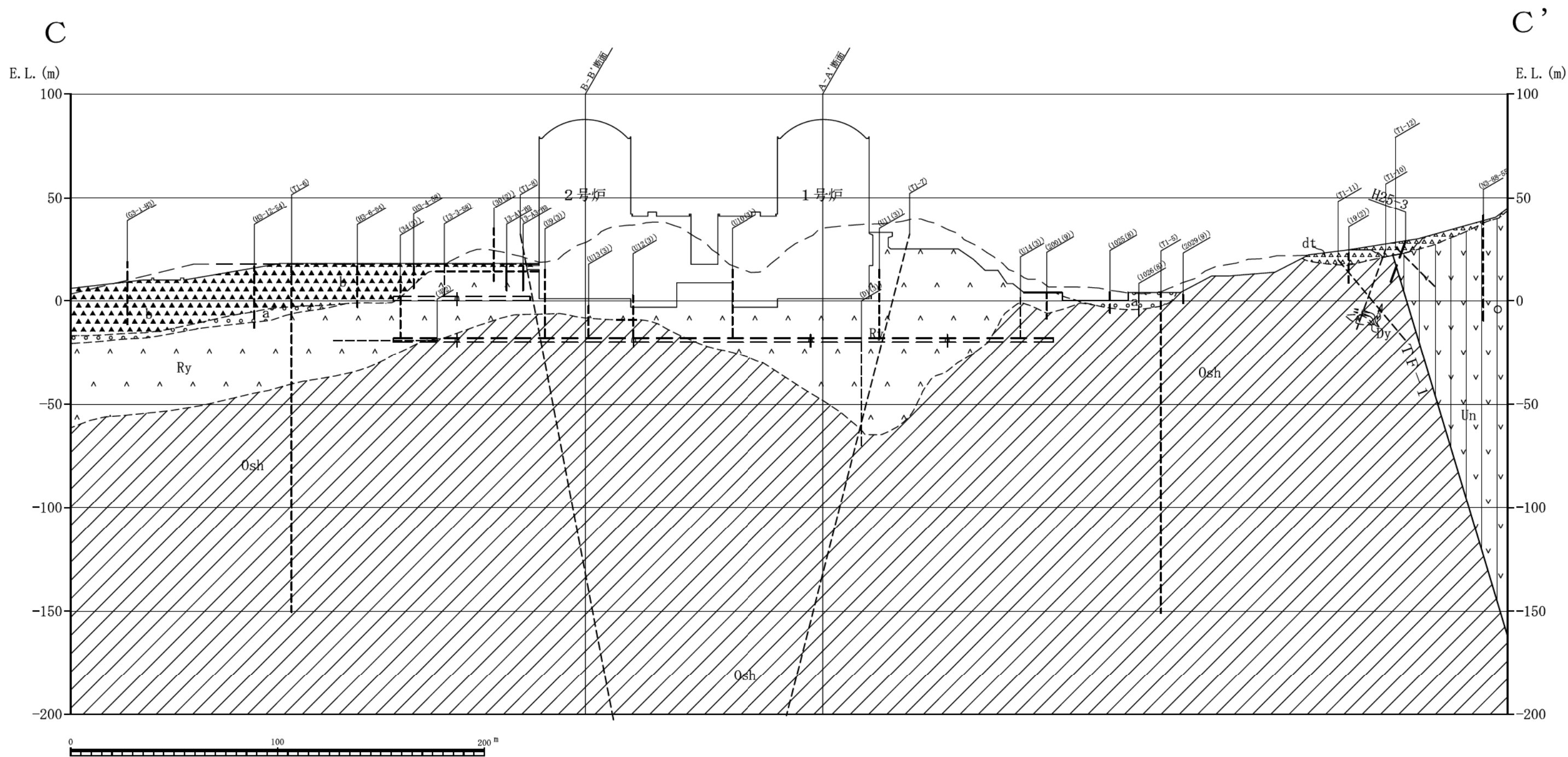
※地質平面図で人工改変地(r)としている部分は、実際に分布する地質で表現した。

※断面図作成位置は第1.5.3図に示す。

第1.5.4図 敷地の地質断面図

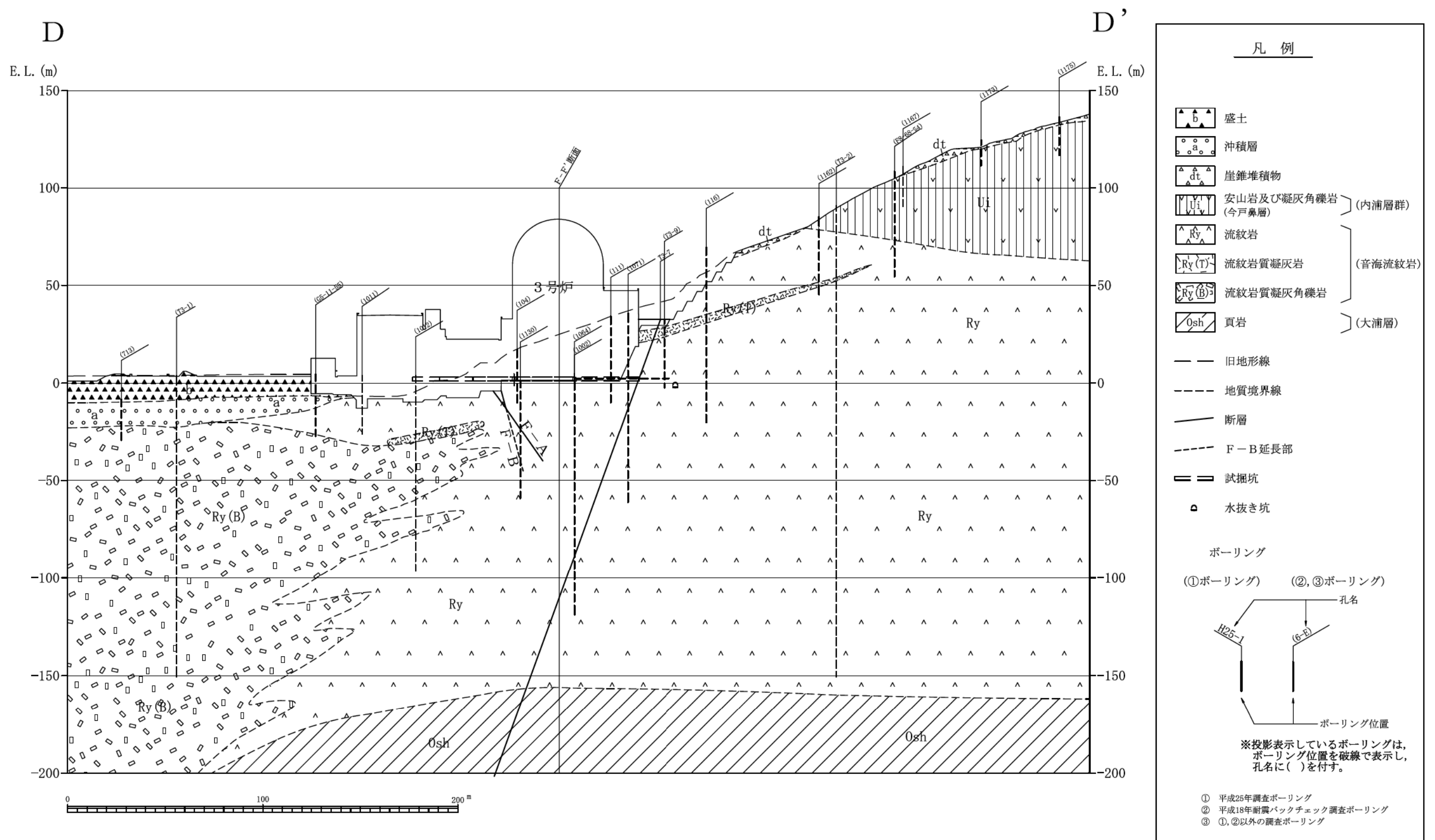


第1.5.6図(1) 地質鉛直断面図(A-A'断面図)



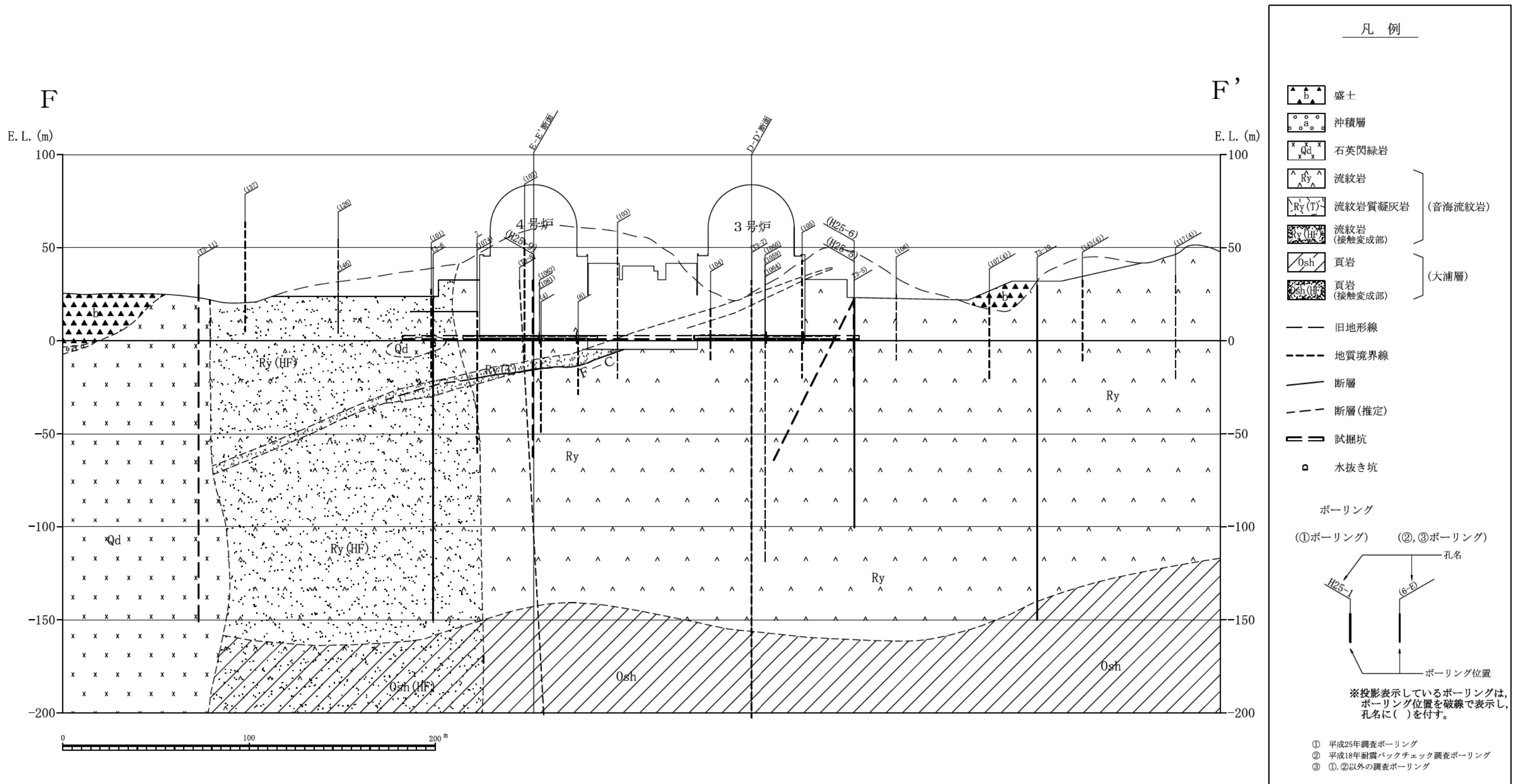
第1.5.6図(3) 地質鉛直断面図(C-C'断面図)

※断面図作成位置は第1.5.5図に示す。



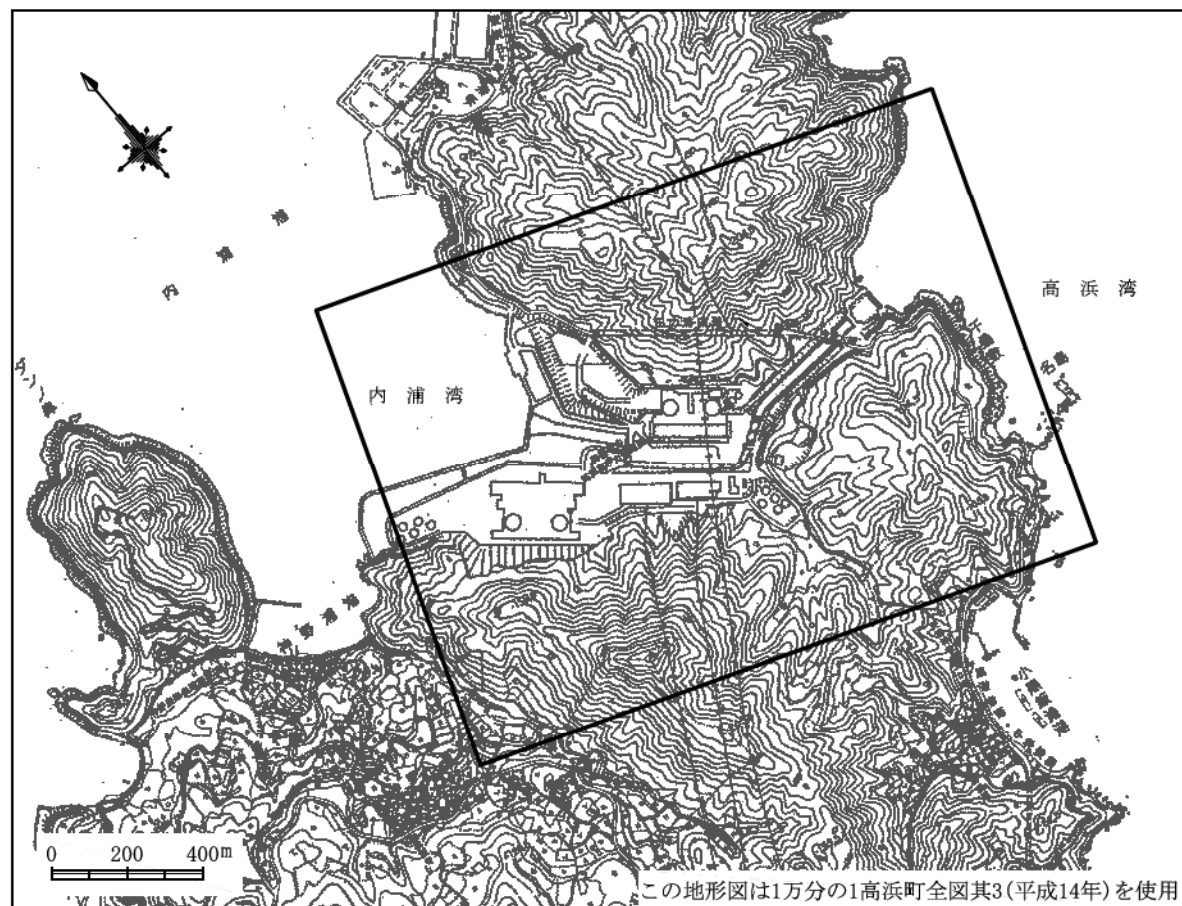
※断面図作成位置は第1. 5. 5図に示す。

第1. 5. 6図(4) 地質鉛直断面図(D-D'断面図)

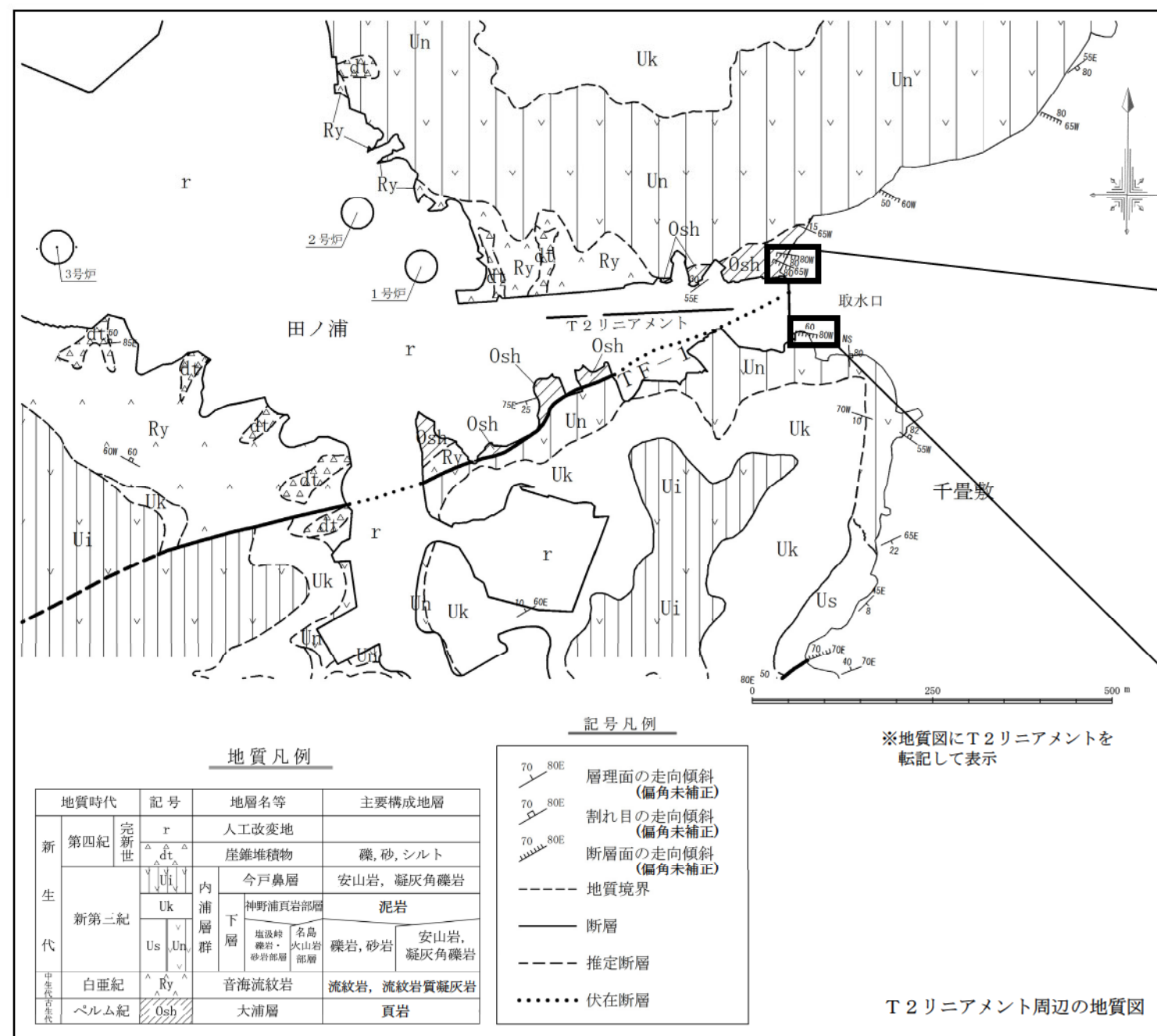


※断面図作成位置は第1.5.5図に示す。

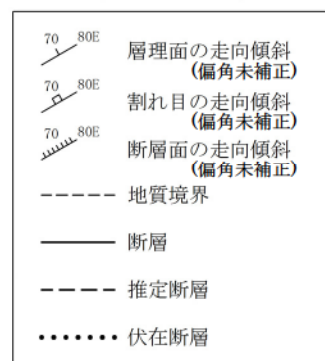
第1.5.6図(6) 地質鉛直断面図(F－F'断面図)



第1.5.7図 敷地の地形調査結果
6-1-461

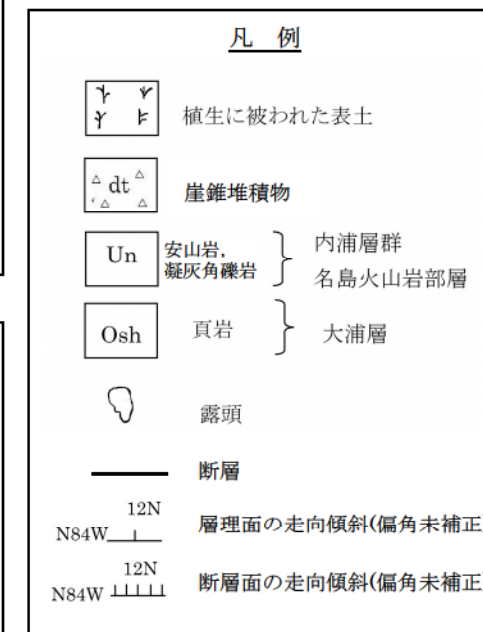
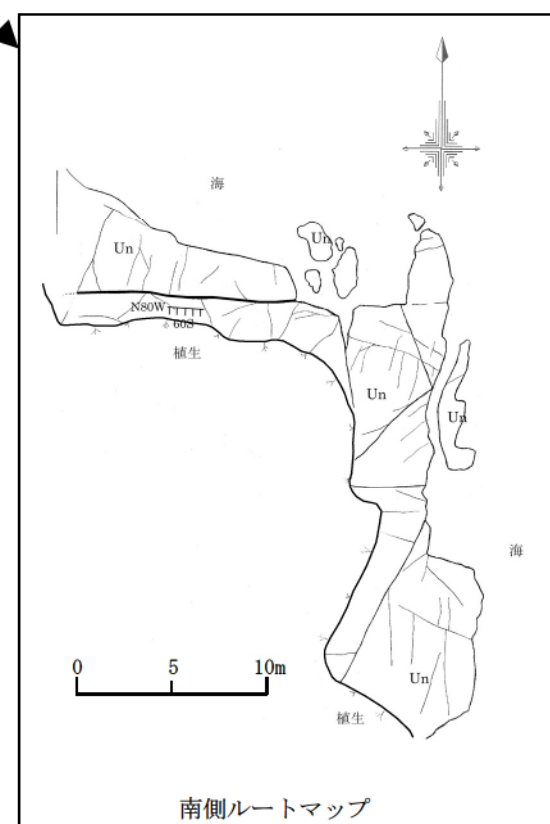
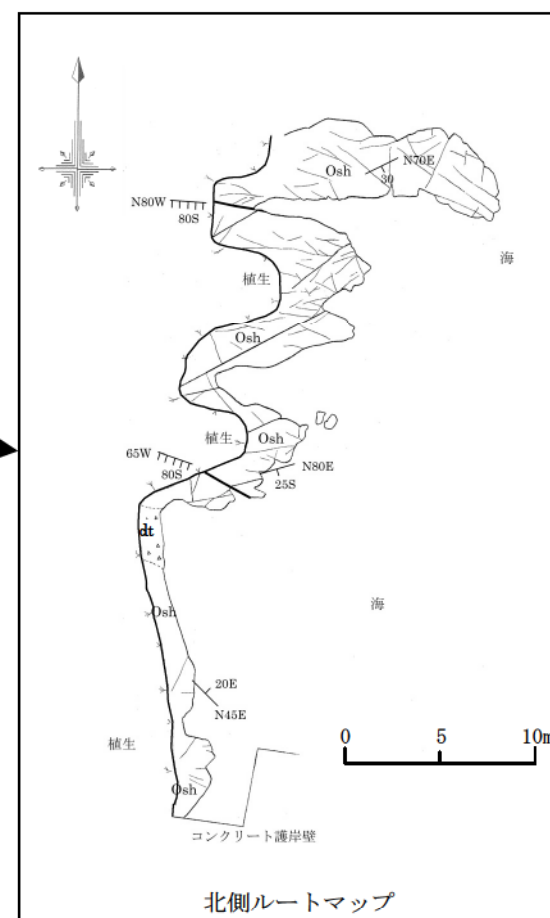


地質時代		記 号	地層名等	主要構成地層	
新 生 代	第四紀	完 新 世	r	人工改変地	
		△ dt △	崖錐堆積物		礫, 砂, シルト
	新第三紀	Ui	内 浦 層 群	今戸鼻層	安山岩, 凝灰角礫岩
		Uk		下層	神野浦頁岩部層
代		Us, Un		塩浜特 礫岩・ 砂岩部層	名島 火山岩 部層
				礫岩, 砂岩	安山岩, 凝灰角礫岩
中 生 代 古 生 代	白亜紀	Ry	音海流紋岩	流紋岩, 流紋岩質凝灰岩	
	ペルム紀	Osh	大浦層	頁岩	



リニアメントに近接する取水口の北側と南側には、大浦層の頁岩と内浦層群の名島火山岩部層の凝灰角礫岩・安山岩が分布する。

両岩盤中にはリニアメントの方向と走向がほぼ調和的な断層が認められるが、破碎帯はいずれも固結している。



第 1.5.8 図 T2 リニアメント周辺の地質図とルートマップ